

喜界島志戸桶方言の文法

内間, 直仁

(出版者 / Publisher)

法政大学沖縄文化研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

琉球の方言 / 琉球の方言

(巻 / Volume)

4

(開始ページ / Start Page)

65

(終了ページ / End Page)

126

(発行年 / Year)

1978-11-25

(URL)

<https://doi.org/10.15002/00012772>

喜界島志戸桶方言の文法

内間直仁

動詞の活用

志戸桶方言の動詞には、他の奄美・沖縄方言と同様に、「基本」「継続」「既存」「完了」の語形替変がある。「書く」に関する形式で示すと、次の通りである。

基本 kakjui (または kakjun) (書く)

継続 katju:i (または katju:n) (書いている)

既存 katje:i (または katje:n) (書いている)

である)

完了 katjai (または katjan) (書いた)

上記の諸形式は活用形では終止形にあたる。奄美方言では終止形に二つの形があらわれるが、志戸桶方言でも、たとえば「基本」では kakjui と kakjun の二つの語形があらわれる。

上記の諸形式は各々がまた活用していく。

1. 「基本」の活用

1.1 「基本」kakjui (書く)の活用

kakjui (書く)を例にとって「基本」の活用について述べる。

「基本」の活用は基本語基語幹・連用派生語幹・音便語基語幹に語尾が結合して形成される。

まず、基本語基語幹に語尾が結合して形成される活用形には、次のようなものがある。後接する形式を < > の中に入れて示す。

志向形 kak-a (書こう) kak-o: (書こう)

否定形 kak-a <n> (書かない)
kak-a: (書かない)

未然形 kak-a <ba> (書かば)

条件形 kak-i <ba> (書けば)

命令形 kak-i (書け)

禁止形 kak-u <na> (書くな)

連用形 kak-i <busa> (書きたい)

連用派生語幹に語尾が結合して形成される活用形には、次のようなものがある。

未然形 kakiur-a <ba> (書きおらば)

条件形 kakiur-i <ba> (書きおれば)

命令形 kakiur-i (書きおれ)

終止形₁ kakju-i (書く)

終止形₂ kakju-n (書く)

連体形 kakju-n <ts?u> (書く人)

準体形 kakju- <mi> (書くか)

推量形 kakjur-o: (書くだろう)

これらの活用形は通時的には連用形 kaki に uri (居り) が結合して成立したものである。また、その成立の初期においては、これらの形式は「進行」の意を表わしていたことも文献上の研究で明らかにされている。

連用派生語幹系列の活用形に、もと「進行」の意があったということは、志戸桶方言の場合にも認められる。たとえば、未然形・条件形・命令形に「～しおる」の意があることは、基本語基語幹系列の未然形・条件形・命令形と比較すればはつきりする。また、これらの活用形は形態的にも kaki（書き）に「居り」にあたる形式が結合して成立していることをよく示している。

但し、同じく連用派生語幹系列でありながら終止形・連体形・準体形・推量形は「～しおる」という「進行」の意は表わさず、「～する」という「基本」の意を表わすのはなぜかという問題がある。これらの活用形も、もと「進行」の意を表わしていたものと解されるが、しかし、基本語基語幹系列にこれらの活用形がないため、従って、また「基本」と「進行」の意味的はい関係も保ちにくくなったため、「進行」の意が次第に失なわれていって、普通よく用いられる「基本」への意味移行をきたしたものと解される。因にそれらの活用形は形態的にも kaki（書き）と uri（居り）が融合してしまい、kakju-となっている。

現在では基本語基語幹と連用派生語幹で形成される活用形は互いに相補うかたちで「基本」を表わしているものと解される。但し、未然形

・条件形・命令形のように両語幹系列の活用形が平行してあらわれるところでは、連用派生語幹系列のものには「進行」の意が認められる。

前述したように、連用派生語幹系列の活用形は連用形 kaki（書き）に uri（居り）の結合したもので、その uri の部分が語形替変を起したものであるが、終止形₂のみは、連用形 kaki（書き）+ uri（居り）+ mu（意志・推量の助動詞「む」に対応する形式）から成立しているものと解される。

以上のように連用派生語幹は語基に連用形を有しており、連用派生語幹という名称もそこに基いている。

次に、音便語基語幹に語尾が結合して形成される活用形には接続形の katʃi（書いて）がある。katʃi は katʃ-i と分析され、katʃ が音便語基語幹である。katʃi（書いて）は、これまで「基本」「継続」等に対して「のちどき」をあらわすものとみてきたが、しかしこれもやはり、連用派生語幹系列の活用形と同様に、「基本」の活用を補う、いわゆる補助活用とみた方が妥当のように解される。katʃi は通時的には「書いて」に対応する。

以上述べてきた「基本」を表わす kakju（書く）の活用を表にして示すと、第1表の通りとなる。

第1表 kakju（書く）の活用

動詞・	語幹	志向形	否定形	未然形	条件形	命令形	禁止形	連用形	終止形 ₁	終止形 ₂	連体形	準体形	推量形	接続形
書 く（基本）	kak	a, oʔ	a, aʔ	a	i	i	u	i						
	kakiu			ra	ri	ri								
	kakju								i	n	n	-	roʔ	
	katʃ													i

表では連用派生語幹は終止形の語幹に合わせて表示し、語幹末尾音の r は語尾の部分に入れてある。また、表中の -印は語幹が直ちに接辞に接していくことを示す。

1.2 「基本」の活用体系

kakju (書く) も含めた志戸桶方言の「基本」を表わす動詞の活用を調査し、整理・体系化した結果について以下記述する。

前述したように、「基本」の活用は基本語基語幹・連用派生語幹・音便語基語幹に語尾が結合して形成される。そこで活用を基本語基語幹・連用派生語幹・音便語基語幹の末尾音の違いによって分類してみると、次の5類に分かれる。基本語基語幹の具体例としては、未然形・命令形・連用形の語幹をあげ、連用派生語幹の場合は終止形の語幹をあげる。なお、Cは子音、Vは母音を表わす。

	基本語基語幹			連用派生語幹 終止形	音便語基語幹 接続形
	未然形	命令形	連用形		
I 類	C	C	C	CSV C	C
II 類	CVC	CVC	C	CVCSVC	CVC
III 類	C	C	C	C, CSV C	C
IV 類	CVC	CVC	C	CVC	C
V 類	CVC	C	C	CSV CVC	C

(1) I類の活用

I類の活用は kakju (書く) に代表されるものである。I類の活用は語幹末尾に具体的に

どんな音がくるかによって、次の8種に分類される。また、イ・ロ等はこれを更に下位分類したものである。

	基本語基語幹			連用派生語幹 終止形	音便語基語幹 接続形
	未然形	命令形	連用形		
1イ	k	k	k	kju(ゝ)	tʃ
1ロ	k	k	k	kju(ゝ)	dʒ
2	ʈ	ʈ	ʈ	ʈju(ゝ)	dʒ
3	s	ʃ	ʃ	su(ゝ)	tʃ
4	t	t	tʃ	tʃu(ゝ)	tʃ
5イ	b	b	b	bjū(ゝ)	d
5ロ	b	b	b	bjū(ゝ)	tʃ
5ハ	b	b	b	bjū(ゝ)	t
6	m	m	m	mju(ゝ)	d
7イ	r	r	(ゝ)	(ゝ)ju(ゝ)	t

第2表

I 類

(志戸桶方言・動詞活用表)

分類	語幹	志向形	否定形	未然形	条件形	命令形	禁止形	連用形	終止形 ₁	終止形 ₂	連体形	準体形	推量形	接続形	所属動詞	
1イ	書く	kak	a,o:	a,a:	a	i	i	u	i						fatarakju (働く)	
		kakju								i	n	n	-	ro:		
		katf														i
1ロ	行く	?ik	"	"	"	"	"	"	"							
		?ikju								"	"	"	"	"		
		?id3													"	
2イ	漕ぐ	Fuŋ	"	"	"	"	"	"	"							
		Fuŋju								"	"	"	"	"		
		Fud3													"	
2ロ	死ぬ	fiŋ	"	"	"	"	i	"	"							
		fiŋju							"	"	"	"	"	"		
		fid3													"	
3	殺す	Fiss	"	"	"	"	"	"								
		Fiff				i	i	"								
		Fissu							"	"	"	"	"	"		
4	立つ	tat	"	"	"	"	i	i	"							
		tatf							"							
		tatju							"	"	"	"	"	"		
5イ	飛ぶ	tub	"	"	"	"	"	"	"							
		tubju							"	"	"	"	"	"		
		tud												"		
5ロ	結ぶ	k?ubb	"	"	"	"	"	"	"							
		k?ubbj							"	"	"	"	"	"		
		k?uttf												"		
5ハ	眠る	nibb	"	"	"	"	"	"	"						habbjui (被る)	
		nibbj							"	"	"	"	"	"		
		nitt												"		
6	読む	jum	"	"	"	"	"	"	"						ts?ummju (包む) kamju (食う)	
		jumju							"	"	"	"	"	"		
		jud												"		
7イ	取る	tur	"	"	"	"	i	i	"						hajui (刈る)	
		tu						n	"							
		tuju							"	"	"	"	"	"		
		tut												"		
7ロ	切る	k?ir	"	"	"	"	i	i	"						?umo?ju (いらっしゃる) k?ijui (着る) nijui (煮る) mijui (見る) jijui (坐る)	
		k?i							n	"						
		k?iju							"	"	"	"	"	"		
		k?itf												"		
8イ	笑う	wara:w	"	"	"	"	"	"	"							
		wara:r					i	i	"						?ara?ju (洗う) ?umuju (思う)	
		wara:							n	"						
		wara:ju							"	"	"	"	"	"		
		wara:t												"		
8ロ	買う	Fo:w	"	"	"	"	"	"	"							
		Fo:r	"	"	"	"	i	i	"							
		Fo:							n	"						
		Fo:ju							"	"	"	"	"	"		
8ハ	言う	?iw	"	"	"	"	"	"	"							
		?ir	"	"	"	"	i	i	"							
		?i							n	"						
		?iju							"	"	"	"	"	"		
		?itf												"		
主な接尾形式			n (ない)	ba (ば) rin (れる) sun (せる)	ba (ば)	jo: (よ)	na (禁止)	busa (たい) ju:sui (できる) jassa (やすい) gurusa (にくい) mpjo:- ju (なさる) je:n (です) du (ぞ) mu (も) nnja (に)				muno: (ものは) ŋani (まで) madi (まで) fadzu (はず) tabi (度) ?e:da (間)	mi (か) tan (た)			

7口	r	r	(o)	(o)ju(o)	tʃ
8イ	w	w	(o)	(o)ju(o)	t
8口	w, r	w, r	(o)	(o)ju(o)	t
8ハ	w, r	w, r	(o)	(o)ju(o)	tʃ

なお、(o)は音韻レベルであられる音素である。

以上の分類に基いて、I類の活用体系を示すと、第2表の通りになる。第2表では連用派生語幹で形成される未然形・条件形・命令形は示していない。これは kakjui (書く) 以外の動詞においても、kakjui と全く同じように活用する、すなわち同形語尾があらわれるということから、表をできるだけ複雑にしないために省いた。また、ſiqjui (死ぬ) は Fugjui (漕ぐ) と全く同じ活用であるが、上代国語や他の方言との比較上、同じ活用でも表示しておいた。

このI類に属して活用する動詞は比較的多い。これからすると、この活用型は規則活用と称することができる。

以下、各活用形の用例を示す。

(㊦) 志向形

志向形には -a, -o: の両形があらわれる。

madzi:ni dʒi: kaka ja: (一緒に字を書こうね)

wag kaka ja: (私書こうね)

wam mu madzi:ni kako: ((私も一諸に書こう))

wam mu madzi:ni kamo: (私も一緒に食べよう)

madzi:ni tura ja: (一緒に取ろうね)

madzi:ni turo ja: (一緒に取ろうね)

(㊧) 否定形

否定形にも -a, -a: の両形があらわれる。

-a形は n (ない, 否定) に接する。

da ja katʃi mu wano: kaka n do: (君は

書いても私は書かない)

?o:gen kaka n ja: (とても書かないね)

kʃika n do: (聞かないぞ。許さないぞ)

da ja ?ikjun nja ?ika n na (君は行くか行かないか)

?ika n su dʒa ja: (行かないのだね)

jurusa n do: (許さないぞ)

midzu se:ra numa n (水さえ飲まない)

wano: tura n (私は取らない)

tura n tʃitʃi kara tutun do: (取らないと言ってから取っているぞ)

?are: ſittʃum mun hatara n (彼は知っているが教えてくれない)

?ure: tʃo: mu wakara n (これさえわからない)

ta:sari ba fo:wa n (高ければ買わない)

-a:形はそのままで否定をあらわす。

wano: kaka: (私は書かない)

ſirabitam mun dʒa ɸa wakara: (調べたけれどもわからない)

midzu se:ra numa: (水さえ飲まない)

wano: tura: (私は取らない)

pə:sa wi:ti mu mani?o:wa: (早く起きても間に合わない)

(㊨) 未然形

wa ɸa kaka ba miri ja (私が書いたらみなさい)

wa ɸa tura ba mutʃi ?iki (私が取ったら持っていけ)

?uttu ni kaka sun (弟に書かせる)

tsʔu ni kaka sun (人に書かせる)
 ʔututu ni tura sui (弟に取らせる)
 furi dʒi dʒi: ɲa kaka rin (これで字が
 書かれる)

jo:ne:ɲata: ja pi:sa nati sytu kai
 ʔidʒira ra: (夕方は寒いから外へは出られ
 ない)

ʔiɲga: ni kʔwa rin do: (犬にかまれる
 ぞ)

warabintʃa: ni madi warawa rin (子供
 にまで笑われる)

ta:sa se: ja fo:wa ra: (高い酒は買え
 ない)

連用派生語幹系列の未然形の用例は次の通り。
 wa ɲa kakiura ba ʔatu kara tun nja ku:
 ja: (私が書きおらば後から取りに来いよ)
 kakiura sun (書きおらす)

(㉔) 条件形

da ɲa kaki ba wa ɲa jumjun do: (君が
 書いたら私が読むぞ)

da ɲa kaki ba jutasam mun (君が書けば
 よいものを)

ʔamakai ʔiki ba butira rin do: (あそ
 こへ行けば叱られるぞ)

wa ɲa turi ba muttʃi ʔiki (私が取れば
 持って行け)

連用派生語幹系列の条件形の用例は次の通り。
 da: kakiuri ba ʔatu kara tun nja
 kju:n do: (君が書きおればあとから取りに
 くるよ)

(㉕) 命令形

dʒi: kaki (字を書け)

da: kaki jo: (君書けよ)

dʒi: kakju te: kaki (字を書くならば書
 け)

dʒi: katʃu: te: ʔabira nnen ʔuki (字
 を書いているならば呼ばないでおけ)

wa ɲa kura ba ʔiki jo: (私が来たら行け
 よ)

tujun tʃo: narabi jo: (取る人は並べよ)
 wa ɲa kaka ba miri ja (私が書いたら見
 れよ)

wa ɲa ʃira ba miri jo: (私がしたらみな
 さい)

pē:sa turi (早く取れ)

ssa turi (草を取れ)

kju:n tʃʔu muke:ri jo (来る人迎えよ)

連用派生語幹系列の命令形の用例は次の通り。

dʒi: kakju:ri (字を書きおれ)

(㉖) 禁止形

fuma ni dʒi: kaku na (ここに字を書
 くな)

da ja kaku na (君は書くな)

ssa tun na (草を取るな)

wusu ʔin na (うそいうな)

(㉗) 連用形

次のような助動詞等に接する

dʒi: kaki busa ja: (字を書きたいね)

ssa tui busa (草を取りたい)

wa ɲa kaki busan (私が書きたい)

ʔamakai ʔiki busa (あそこへ行きたい)

wano: kaki ju:sui (私は書くことができ
 る)

kaki nʃo:jui (mpjo:jui) (お書きになる)

kaki ʔammasan (書きにくい)

kaki jassan (書きやすい)

次のような助詞等にも接する。

jumi mu ʃiri ba kaki mu sun do: (読
 みもすれば書きもするぞ)

kaki nnja ʔikjun (書きに行く)

kaki du suru (書きぞする。書くんだ)
 ?aŋ ŋa kaki du suru (彼が書きぞする。
 彼が書くんだ)

ja (は) に接する時は融合をおこす。

kake: (←kaki ja) fira n do: (書きは
 しないぞ)

また, ja:nu (～しながら) je:n (です。
 ます) に接する時も融合をおこす。

dʒi: kakja:nu (←kaki ja:nu) kappjə:
 jun (字を書きながら考える)

kakja:nu (←kaki ja:nu) jumun (書き
 ながら読む)

ssa tuja:nu (←tui ja:nu) jase: tu-
 tun do: (草を取りながら野菜を取っているよ)

dʒi: kake:n (←kaki je:n) (字を書き
 ます)

?atʃa: kake:n (←kaki je:n) (明日書
 きます)

他の動詞が ja:nu (～しながら) je:n (で
 す, ます) に接した時の形も示すと, 次の通
 り。

ja:nu に接した場合

fatarakja:nu (働きながら) ?ikja:nu
 (行きながら) ruŋja:nu (漕ぎながら)

ʃiŋja:nu (死にながら) fissa:nu (殺
 しながら) tatʃa:nu (立ちながら)

tubja:nu (飛びながら) kʔubbjja:nu (結
 びながら) nibbjja:nu (眠りながら)

habbjja:nu (被りながら) jumja:nu (読
 みながら) tsʔummja:nu (包みながら)

kamja:nu (食いながら) tuja:nu (取
 りながら) haja:nu (刈りながら)

kʔija:nu (切りながら) ?umo: ja:nu (い
 らっしゃりながら) kʔija:nu (着なが
 ら) nija:nu (煮ながら) mija:nu (

見ながら) jija:nu (坐りながら)

wara: ja:nu (笑いながら) ?ara: ja:-
 nu (洗いながら) ?umu: ja:nu (思い
 ながら) fo: ja:nu (買いながら)

?ija:nu (言いながら)

je:n に接した場合

fatarake:n (働きます) ?ike:n (行き
 ます) rupe:n (漕ぎます) ʃipe:n (死
 にます) fiffje:n (殺します)

tatʃe:n (立ちます) tube:n (飛びます)

kʔubbe:n (結びます) nibbe:n (眠り
 ます) habbe:n (被ります) jume:n (読
 みます) tsʔumme:n (包みます)

kame:n (食べます) tuje:n (取ります)

haje:n (刈ります) kʔije:n (切ります)

?umo: je:n (思います) kʔije:n (着
 ます) nije:n (煮ます) mije:n (見
 ます) jije:n (坐ります)

waraje:n (笑います) ?araje:n (洗
 います) ?umuje:n (思います)

fo: je:n (買います) ?ije:n (言いま
 す)

連用形はまた, 次のような形式体言にも接す
 る。

kaki kata: jassan (書き方はやすい)

tui nen tubi so: (鳥の飛びようだ。鳥が
 飛ぶみたいだ)

(ク) 終止形₁

dʒi: kakjui (字を書く)

ʃe: ja ju: numjum mun dʒa ŋa ju:

patarakjui (酒はよく飲むけれどもよく働
 く)

?akkja:nu jumjui (歩きながら読む)

hamatʃiŋa jamjun nati kju: ja jasu-
 mjui (頭が痛いから今日は休む)

ʧi n nai tujui (木の実をとる)
 ta:sa bakkai fa:jui (高さばかりはかる)
 ?an ta:sa ʧani ?ikkja:jui (あの高さまで届く)
 fusa tuti ?umo:jui (草をとっていらっしやる)
 ʃimbun judi ?umo:jui (新聞を読んでいる)
 Funi fudʒi ?umo:jui (舟を漕いでいらっしやる)
 ?aŋ ʧa kuri ba wakajui (彼が来ればわかる)
 ta:sa mu wakajui (高さもわかる)
 ta:sa dʒi wakajui (高さでわかる)

(㍻) 終止形₂

dʒi: kakjun (字を書く)
 wa ʧa kakjun do: (私が書くぞ)
 da ʧa kakjun nja: (君が書くか)
 ts?uki nu ?aŋajum maði mu patarakjun (月の上がるまで働く)
 kaki nnja ?ikjun (書きに行く)
 ts?u muke nnja ?ikjun do: (人を迎えに行くぞ)
 dʒi: katʃi kara ?ikjun (字を書いてから行く)
 wa ʧa ?ikjun (私が行く)
 ja: kai ?ikjun do: (家へ行くぞ)
 waŋ kai ?ikjun (湾部落へ行く)
 hako: ʧi: dʒi ts?ukkjun do: (箱は木でつくる)
 pama dʒi ?asubjun do: (浜で遊ぶぞ)
 tubjun do: (飛ばす)
 da ʧa kakī ba wa ʧa jumjun do: (君が書けば私が読むぞ)
 ʧi: n nai tujun (木の実をとる)

da ʧa tujun nja (君が取るか)
 mijun do: (見るぞ)
 ta:sa ʧa tʃʷiŋajun (高さが違う)
 fun ta:sa kara fa:jun (この高さからはかる)
 (⇒) 連体形
 kakjum muno: nu:ʧa (書くものはなにか)
 ?ari naʃi patarakjun ts?u wura n do:
 (彼のように働く人はいない)
 tujun tʃʷo: narabi jo: (取る人は並びなさい)

fo:jun tʃʷo: wura n (買う人はいない)
 nu:mu ?ijun kuto: ne:ra n (なにも言うことはない)

dʒi kakjun tabi ni darijun (字を書く度に疲れる)

wa ʧa kakjun ?e:da matʃuri (私が書く間待っておれ)

na:mi ʧa kakjun fadzu dʒa (あなたが書くべきだ)

?aŋ ʧa kakjun fadzu dʒa ʧa (彼が書くはずだが)

ts?uki nu ?aŋajum maði mu patarakjun (月の上がるまで働く)

?ujantʃa: nu ?ijun tu:ʃi ni ʃiri jo:
(親の言う通りにしなさいよ)

連体形には kakjun (書く) 以外に kaki:-n という形もあらわれる。

wa ʧa kaki:m maði ?are: kura n tan (私が書くまで彼は来なかった)

wa ʧa kaki:ŋ ʧani kura n tan (私が書くまで来なかった)

tuiŋ ʧani matʃura (取るまで待ってよう)

他の動詞の例も示すと、次の通り。

fataraki:n (働く) ?iki:n (行く)
 fugi:n (漕ぐ) figi:n (死ぬ)
 fi:ffi:n (殺す) tatfi:n (立つ)
 tubi:n (飛ぶ) k?ubbi:n (結ぶ)
 nibbi:n (眠る) habbi:n (被る)
 jumi:n (読む) ts?ummi:n (包む)
 kami:n (食う) tui:n (取る)
 hai:n (刈る) k?i:n (切る)
 ?umo:i:n (いらっしゃる) k?i:n (着る)
 ni:n (煮る) mi:n (見る) ji:n
 (坐る) warain (笑う) ?arain (洗
 う) ?umuin (思う) fo:i:n (買う)
 ?i:n (言う)

上記の連体形の形は沖永良部等の hakkinu
 (書く)等とつながる形かもしれない。

(㊦) 準体形

助動詞 tan (た, 過去), 助詞 mi (か, 疑問), su (の, 準体動詞), te: (~ならば, 条件)等に接する。

na: kakju tan (もう書いた)
 fure: taθ θa kakju su jo (これは誰が
 書くのか)
 nugaffi rumani dgi: kakju so: (どうし
 てここに字を書くのか)
 da: ja dga: kai ?ikju su jo: (あなた
 はどこへ行くのか)
 ssa tuju su na (草を取るのか)
 ?atuni duttsui nukuju su na (あとに1
 人残るのか)
 jo: dgin firi tji ?iju su do: (用心しろ
 というのだぞ)
 wa θa kakju mi (私が書くか)
 dgi: kakju te: kaki (字を書くならば書
 け)
 ?ami fu te: jamijui (雨が降るとやめ

る)
 wa θa tuju te: da ja tun na jo: (私
 が取ったらお前は取るなよ)

他に, te: に接する例を示すと, 次の通り。
 fatarakju te: (働くならば) ?ikju te:
 (行くなれば) fugju te: (漕ぐならば)
 figju te: (死ぬならば) fi:ssu te: (殺
 すならば) tatju te: (立つならば)
 tubju te: (飛ぶならば) k?ubju te:
 (結ぶならば) nibju te: (眠るならば)
 habju te: (被るならば) jumi te:
 (読むならば) ts?ummju te: (包むなら
 ば) kamju te: (食べるならば) tuju
 te: (取るならば) hajju te: (刈るなら
 ば) k?iju te: (切るならば) ?umo:ju
 te: (いらっしゃるならば) k?iju te:
 (着るならば) ni:ju te: (煮るならば)
 mi:ju te: (見るならば) ji:ju te: (坐
 るならば) waraju te: (笑うならば)
 ?araju te: (洗うならば) ?umuju te:
 (思うならば) fo:ju te: (買うならば)
 ?iju te: (言うならば)

(㊧) 推量形

2aθ θa kakjuro: (彼が書くだらう)
 ?atja: ?ikjuro: (明日行くだらう)
 ?aθ θa jumjuro: (彼が読むだらう)
 ?aθ θa tujuro: (彼が取るだらう)

(㊨) 接続形

da ja katfi mu wano: kaka n do: (君は
 書いても私は書かないぞ)
 katfi bakkai wun (書いてばかりいる)
 dgi: katfi kara ?ikjun (字を書いてから
 行く)
 katfe: (← katfi ja) ?ika n do: (書いて
 はいけないぞ)

funi fudʒi ʔumoːjui (舟を漕いでおられる)

nnjama madī mattʃi mu kura n soː (今まで待っても来ないよ)

ʃimbun judi ʔumoːjui (新聞を読んでおられる)

ssa tuti ʔumoːjui (草を取っておられる)

ssa tuti kjurasa sun (草をとってきれいにする)

nafa kara muduti kjun doː (那覇から戻ってくるぞ)

接続形はそのままの形で「～した」という過去の意も表わす。

dʒiː katʃi (字を書いた)

funi fudʒi (舟を漕いだ)

ʔidʒi (行った) fi ʃi (殺した)

tatʃi (立った) tudi (飛んだ)

kʔutʃi (結んだ) nitti (眠った)

judi (読んだ) tuti (取った)

kʔi ʃi (切った) waraːti (笑った)

foːti (買った) ʔi ʃi (言った)

(2) II類の活用

II類の活用は ʔukiːjui (受ける) に代表されるものであるが、基本語基語幹 CVC の V のところが i であるか i であるかによって、甲類・乙類に分けられる。甲類は語幹末尾子音にどんな音がくるかによって(具体的には連用形の語幹の末尾子音にどんな子音がくるかによって)さらに5種に分けられる。

甲 類

基本語基語幹

	基本語基語幹			連用派生語幹	音便語基語幹
	未然形	命令形	連用形	終止形	接続形
1	kīr	kīr	k	kī(ʔ)ju(ʔ)	kīt
2	ɣīr	ɣīr	ɣ	ɣī(ʔ)ju(ʔ)	ɣīt
3	ʃīr	ʃīr	ʃ	ʃī(ʔ)ju(ʔ)	ʃīt
4	bīr	bīr	b	bī(ʔ)ju(ʔ)	bīt
5	(ʔ)īr	(ʔ)īr	(ʔ)	(ʔ)ī(ʔ)ju(ʔ)	(ʔ)īt
乙 類	tir	tir	t	ti(ʔ)ju(ʔ)	tit

但し、この分類もまだ十分でなく、より多くの語を調査していけば、もっと精密な分類が可能である。

以上の分類に基づいて、II類の活用体系を示すと、第3表・第4表の通りになる。この活用型に従って活用する動詞もI類について比較的多

いところから、これも規則活用と称しうる。以下、各活用形の用例を示す。

第3表

Ⅱ 類 甲

(志戸桶方言・動詞活用表)

分類	語幹	志向形	否定形	未然形	条件形	命令形	禁止形	連用形	終止形 ₁	終止形 ₂	連体形	準体形	推量形	接続形
1	受ける	ʔukir	a, o:	a, a:	a	i	i	u						
		ʔuki						n						
		ʔuk							i					
		ʔukiju								i	n	n	-	ro:
		ʔukit												
2	上げる	ʔaɸir	""	""	""	""	""	""						
		ʔaɸi						""						
		ʔaɸ							""					
		ʔaɸiju								""	""	""	""	""
		ʔaɸit												
3	蹴る	ɸir	""	""	""	""	""	""						
		ɸi						""						
		ɸ							i:					
		ɸiju								""	""	""	""	""
		ɸit												
4	呼ぶ	ʔabir	""	""	""	""	""							
		ʔabi						""						
		ʔab							""					
		ʔabiju								""	""	""	""	""
		ʔabit												
5	起きる	wi:r	""	""	""	""	""	""						
		wi:						""						
		wi							""					
		wi:ju								""	""	""	""	""
		wi:t												

第4表

Ⅱ 類 乙

(志 戸 桶 方 言 ・ 動 詞 活 用 表)

分 類	語 幹	志 向 形	否 定 形	未 然 形	条 件 形	命 令 形	禁 止 形	連 用 形	終 止 形 ₁	終 止 形 ₂	連 体 形	準 体 形	推 量 形	接 続 形
落ちる	kʔantir	a, o:	a, a:	a	i	i	u							
	kʔanti						n							
	kʔant							i						
	kʔantiju								i	n	n	-	ro:	
	kʔantit													i

(ア) 志向形

madzini ʔukira (一緒に受けよう)

madzini ʔukiro: (一緒に受けよう)

(イ) 否定形

wano: ʔukira n (私は受けない)

wano: ʔukira: (私は受けない)

dʒi: katʃu: te: ʔabira nnen ʔuki (字
を書いているならば、呼ばないでおけ)

(ウ) 未然形

ʔukira ba miri (受けらば見なさい)

ʔabira ba ʔiki (呼ばば行け)

(エ) 条件形

ʔaŋ ʔa ʔukiri ba miri (彼が受ければ見
なさい)

ʔabiri ba ʔiki (呼べば行け)

(カ) 命令形

ʔukiri jo: (受けれよ)

ʔabiri jo: (呼べよ)

(キ) 禁止形

ʔukiru na (受けるな)

ʔukin na (受けるな)

ʔabin na (呼ぶな)

(ク) 連用形

ʔuki busa (受けたい)

ʔabi busa (呼びたい)

ʧi: busa (蹴りたい)

wi: busa (起きたい)

連用形に ja:nu (～しながら) je:n (で
す、ます)が接する時は、次のようになる。

ʔuki ja:nu (受けながら) ʔaŋi ja:nu

(上げながら) ʧi: ja:nu (蹴ながら)

ʔabi ja:nu (呼びながら) wi: ja:nu

(起きながら) kʔanti ja:nu (落ちなが
ら)

ʔuki je:n (受けます) ʔaŋi je:n (上

げます) ʧi: je:n (蹴ります) ʔabi

je:n (呼びます) wi je:n (起きます)

kʔanti je:n (落ちます)

(ク) 終止形₁

nja: ʔukijui (もう受ける)

wa ʔa ʔabijui (私が呼ぶ)

ʔami fu te: jamijui (雨が降ればやめ
る)(ク) 終止形₂

nja: ʔukijun (もう受ける)

wa ʔa ʔabijun (私が呼ぶ)

ʔaŋ ɣa ta:sa tu kʔurabijun (彼の高さと
比べる)

dʒi: kakja:nu kaŋŋə: jun (字を書きながら
考える)

kaŋŋə: jun は基本語基語幹が CëC となるの
で、甲類 (CiC)・乙類 (CiC) に対して丙類
と位置づけてよいであろう。

(㉓) 連体形

ʔukijun tʃʔu (受ける人)

ʔabijun tʃʔu (呼ぶ人)

連体形には別に ʔukiin (受ける) という
形もあらわれる。

ʔukim madī (受けるまで) ʔukiig ɣanī
(受けるまで) ʔaŋim madī (上げるまで)

ʔaŋiig ɣanī (上げるまで) ʃi:m madī
(蹴るまで) ʃi:ŋ ɣanī (蹴るまで)

ʔabiim madī (呼ぶまで) ʔabiig ɣanī
(呼ぶまで) wi:im madī (起きるまで)

wi:iŋ ɣanī (起きるまで) kʔanti:m ma-
di (落ちるまで) kʔanti:ŋ ɣanī (落ちる
まで)

(㉔) 準体形

ʔukiju su na (受けるのか)

ʔabiju su na (呼ぶのか)

ʔukiju te: (受けるならば) ʔaŋiju te:
(上げるならば) ʃiju te: (蹴るならば)

ʔabiju te: (呼ぶならば) wi:ju te:
(起きるならば) kʔantiju te: (落ちるな
らば)

(㉕) 推量形

nja: ʔukijuro: (もう受けるだろう)

ʔaŋ ɣa ʔabijuro: (彼が呼ぶだろう)

(㉖) 接続形

ʔukiti ʔikjun (受けて行く)

pë:sa wi:ti mu maniʔo:wa (早く起きて

も間に合わない)

tiŋ kara ʔutiti kjun (天から落ちてくる)

ju: kaŋŋə:ti kuri jo: (よく考えてくれ
よ)

kʔantijui (落ちる) 以外に ʔutijui (落
ちる) という語もある。

接続形は「～した」という過去の意もあらわ
す。

ʔukiti (受けた) ʔaŋiti (上げた)

ʃiti (蹴った) ʔabiti (呼んだ)

wi:ti (起きた) kʔantiti (落ちた)

(3) Ⅲ類の活用

Ⅲ類に属して活用する語は wui (居る) と、
ʔai (有る) である。その活用は第5表の通り。

wui (居る) と ʔai (有る) は I 類の tujui-
i (取る) に近い活用をするが、tujui (取
る) と異なるところは、終止形から推量形まで
の活用形が基本語基語幹で形成されていること
である (I 類の活用ではこれらの活用形は連用
派生語幹で形成されている)。但し、Ⅲ類の方
でも終止形のみは、たとえば「居る」でいうと
基本語基語幹系列の wui, wun と連用派生語幹
系列の wujui, wujun が併用されている。終止
形から推量形までの活用形が連用派生語幹 wu-
ju で形成されると、これは tujui (取る) の
活用と全く同じになる。

これを通時的にみれば、基本語基語幹系列の
終止形・連体形・準体形・推量形は wori (居
り) に更に wori (居り) が結合して成立した
とは解されない。終止形でいうならば、wui
は「ヲリ」に対応し、wun は「ヲリム」に対応
する。但し、連用派生語幹系列の終止形 wuju-
i, wujun は「ヲリ」に「ヲリ」の結合した「
ヲリヲリ」「ヲリヲリム」から成立しているも

第5表

Ⅲ 類

(志 戸 桶 方 言 ・ 動 詞 活 用 表)

△印はないという記号

分 類	語 幹	志 向 形	否 定 形	未 然 形	条 件 形	命 令 形	禁 止 形	連 用 形	終 止 形 ₁	終 止 形 ₂	連 体 形	準 体 形	推 量 形	接 続 形
イ 居 る	wur	a,o:	a,a:	a	i	i								
	wu						n	i	i	n	n	-	ro:	
	wuju								i	n				
	wut													i
ロ 有 る	?ar	△△	△△	〃	〃	△								
	?a						△	〃	〃	〃	〃	〃	〃	
	?aju								〃	〃				
	?at													〃

のと解される。

Ⅲ類に属して活用する動詞は wui (居る) と ?ai (有る) の2語のみで、これは不規則活用と称しうるものである。

以下、各活用形の用例を示す。

(ア) 志向形

madzini wura (一緒に居よう)

madzini woro: (一緒に居よう)

(イ) 否定形

fo: jun tʃo: wura n (買う人は居ない)

?ari nafi patarakjun tsʃu wura n do: (彼のように働く人はいない)

(ウ) 未然形

wura ba ?abiri (居らば呼べ)

wura sun (居らせる)

(エ) 条件形

wuri ba ?abiri (居れば呼べ)

wuri ba kakjun (居れば書く)

(オ) 命令形

wuri jo: (居れよ)

fuma ni wuri (ここに居れ)

(カ) 禁止形

wun na (居るな)

fuma ni wun na (ここに居るな)

(キ) 連用形

wui busa (居たい) wui gursa (居にくい)

ja: nu (~しながら) je: n (です, ます) に接する時は、次のようになる。

wuja: nu (居ながら) ?aja: nu (有りながら)

wuje: n (居ます) ?aje: n (有ります)

(ク) 終止形₁

終止形₁には基本語基語幹系列のものと連用派生語幹系列のものとがあらわれる。基本語基語幹系列のものは次の通り。

fuma ni wui (ここに居る)

fuma ni ?ai (ここに有る)

wui ?ai は各々「ヲリ」「アリ」に対応する。

連用派生語幹系列のものは次の通り。

fuma ni wujui (ここに居る)

fuma ni ?ajui (ここに有る)

wujui ʔajui は各々「ヲリヲリ」「アリヲリ」に対応する。

(㉞) 終止形₂

終止形₂にも基本語基語幹系列のものと連用派生語幹系列のものがあらわれる。基本語基語幹系列のものは次の通り。

katʃi bakkai wun (書いてばかりいる)
ʔuttu ja ja:ni wun do: (弟は家に居るぞ)
warabiŋʃa: gabaffi wun (子供までたくさんいる)

wun は「ヲリム」に対応する。

連用派生語幹系列のものは次の通り。

katʃi bakkai wujun (書いてばかりいる)
wujun は「ヲリヲリム」に対応する。

(㉟) 連体形

連体形は基本語基語幹で形成される。

wun tʃʔu (居る人)
ʔare: ja:ni wuk kaja: (彼は家に居るかしら)

連体形には他に wuin, ʔain の形もあらわれる。

wuim madi (居るまで) wuiŋ ʔani (居るまで)

ʔaim madi (有るまで) ʔaiŋ ʔani (有るまで.)

(㊱) 準体形

準体形も基本語基語幹で形成される。

wu mi (居るか) ʔa mi (有るか)
ʔuttu diŋmu wu te: tsʔuri ku: jo: (弟でも居たらつれてこい)
fuma ni ʔa su na (ここにあるのか)
du: dʒa:ni ʔa su jo: (どれどこにあるの)
ʔa te: tujun (あるなら取る)

(㊲) 推量形

推量形も基本語基語幹で形成される。

wuro: (居るだろう) ʔaro: (あるだろう)

(㊳) 接続形

wuti kara ku: jo: (居てから来いよ)

接続形にはまた過去の意もある。

wuti (居った) ʔati (有った)

(4) V・V類の活用

V類とV類はここでまとめて記述する。V・V類に属して活用する語は各々 sui (する)・kju:n (来る)の1語のみで、両者とも不規則活用である。但し、V類には mikkasun (黙る) 等のような複合語も多少属している。

sui (する) kju:n (来る)の活用は第6表・第7表の通りである。

第6表

V 類

(志戸桶方言・動詞活用表)

分類	語幹	志向形	否定形	未然形	条件形	命令形	禁止形	連用形	終止形 ₁	終止形 ₂	連体形	準体形	推量形	接続形
する	ʃir	a,o:	a,a:	a	i	i								
	ʃi						n							
	ʃ							i:						
	su								i	n	n	-	ro:	
	ʃʃ													i

第7表

V 類

(志 戸 桶 方 言 ・ 動 詞 活 用 表)

分 類	語 幹	志 向 形	否 定 形	未 然 形	条 件 形	命 令 形	禁 止 形	連 用 形	終 止 形 ₁	終 止 形 ₂	連 体 形	準 体 形	推 量 形	接 続 形
来 る	kur	a,o:	a,a:	a	i									
	ku						n							
	k					u:		i:						
	kju:								i	n	n	-	ro:	
	tʃʔ													i

V類の sui (する) は I類の fīssui (殺す) に近い活用を示すが、接続形において fīssui は fittʃi (殺して) となるのに対し、sui は ʃitʃi とはならず ʃʃi (して) となるところに不規則性がある。

V類の kju:n (来る) は命令形が ku: (来い) となる点で、他の類とは活用を異にし、不規則性を有している。

以下、sui (する) と kju:n (来る) の各活用形の用例を示す。

(㊦) 志向形

madʒini ʃira ja: (一緒にしようね)
 madʒini ʃiro: ja: (一緒にしようね)
 madʒini kura ja: (一緒に来ようね)
 madʒini kuro: ja: (一緒に来ようね)

(㊧) 否定形

wano: ʃira: (私はしない)
 wano: ʃira n (私はしない)
 kake: ʃira n do: (書きはしないぞ)
 ʔaʃʃi ʃi:mu ʃira nti mu da: katti dʒa
 (そうしようがしまいが君の勝手だ)
 wano: kura: (私は来ない)
 wano: kura n (私は来ない)
 wa ɢa kaki:m maði ʔare: kura n tan

(私が書くまで彼は来なかった)

njama maði mattʃi mu kura n so: (今まで待っても来ない)

(㊨) 未然形

wa ɢa ʃira ba miri jo: (私がしたら見なさいよ)
 wa ɢa kura ba ʔiki jo: (私が来たら行けよ)

ʔuttu ni kura sui (弟に来させる)

(㊩) 条件形

wa ɢa ʃiri ba miri jo: (私がすれば見なさい)
 jumi mu ʃiri ba kaki mu sun do: (読みもすれば書きもするぞ)
 wa ɢa kuri ba ʔiki jo: (私が来れば、行けよ)

ʔaɢ ɢa kuri ba wakajui (彼が来ればわかる)

(㊪) 命令形

ʃigutu ʃiri (仕事をせよ)
 jo: dʒin ʃiri tʃi ʔiju su do: (用心しろと
 いうのだぞ)
 ʔujanʃa: nu ʔijun tu:i ni ʃiri jo:
 (親の言う通りにしなさいよ)

fuma kai ku: (ここへ来い)

?atu kara tun nja ku: ja (後から取り
に来なさい)

da mu ku: (君も来い)

(カ) 禁止形

fiɣutu ʃin na (仕事をするな)

fuma kai kun na (ここへ来るな)

(キ) 連用形

fiɣutu ʃi: busa (仕事をしたい)

?aʃʃi ʃi: mu ʃira n̄ti mu da: katti dʒa
(そうしようがしまいが君の勝手だ)

fuma kai ki: busa (ここへ来たい)

ja:nu (~しながら) je:n (です, ます)
に接する時は次のようになる。

fiɣutu ʃi ja:nu jasumjui (仕事をしながら
ら休む)

kja:nu (←ki ja:nu) jumjun (来ながら
読む)

ʃe:n (←ʃi je:n) (します)

ke:n (←ki je:n) (来ます)

(ク) 終止形₁

?atʃa kara ʃiɣutu sui (明日から仕事する)

rutai haritai sui (降ったり晴れたりする)

?idʒai tʃai sui (行ったり来たりする)

?atʃa kju:i (明日来る)

(ケ) 終止形₂

?atʃa kara ʃiɣutu sun do: (明日から仕
事するぞ)

kaki mu sun do: (書きもするぞ)

?atu kara tun nja kju:n do: (あとから
取りにくるよ)

tig kara ?utiti kju:n (天から落ちてく
る)

?atʃa kju:n do: (明日来るぞ)

(コ) 連体形

ʃiɣutu sun tʃʔo: ?atʃa ku: jo: (仕事す
る人は明日来いよ)

kju:n tʃʔu muke:ri jo: (来る人を迎えな
さい)

?uttu: ja ?itsu kjuk kaja: (弟はいつく
るのかしら)

nara madi ?idʒi kjus sa (那覇まで行っ
てくるさ)

上記のように, kju:n (来る)は後接する接
辞の音環境によっては kjuk, kjus等と末尾が
促音化する場合もある。

連体形には他に ʃi:n (する) ki:n (来る)
の形もある。

ʃiɣutu ʃi:n ɣani mattʃura (仕事するま
で待っていよう)

ki:ɣ ɣani mattʃura (来るまで待とう)

(カ) 準体形

?atʃa kara ʃiɣutu su su na (明日から仕
事をするのか)

?atʃa kju: su na (明日来るのか)

?aɣ ɣa su te: miri jo: (彼がしたらみな
さい)

wa ɣa kju: te: da ja kun na jo: (私
が来たら君は来るなよ)

(キ) 推量形

?aɣ ɣa suro: (彼がするだろう)

?asati kju:ro: (明後日来るだろう)

(ク) 接続形

ʃiɣutu ʃʃi mudujun (仕事をして戻る)

kju: tʃʔi ?atʃa mudujun (今日来て明日
帰る)

これまで同様, 接続形は過去の意も表わす。

ʃʃi (した) tʃʔi (来た)

2. 「継続」「既存」「完了」の活用

最初に述べたように、志戸桶方言には、「基本」を表わす *kakjui* (書く) 以外に、「継続」「既存」「完了」を表わす *katju:i* (書いている) *katje:i* (書いてある) *katjai* (書いた) がある。これらの形式もまた活用する。以下、その活用について述べる。

2.1 「継続」*katju:i* (書いている) の活用

継続を表わす *katju:i* は次のように活用する。

志向形	<i>katjiur-a</i> (書いていよう)
	<i>katjiur-o:</i> (書いていよう)
否定形	<i>katjiur-a <n></i> (書いていない)
	<i>katjiur-a:</i> (書いていない)
未然形	<i>katjiur-a <ba></i> (書いておらば)
条件形	<i>katjiur-i <ba></i> (書いておれば)
命令形	<i>katjiur-i</i> (書いておれ)
禁止形	<i>katjiu-n <na></i> (書いているな)
連用形	<i>katjiu-i <busa></i> (書いていたい)
終止形 ₁	<i>katju:-i</i> (書いている)
終止形 ₂	<i>katju:-n</i> (書いている)
連体形	<i>katjiu-n <tsʔu></i> (書いている人)
準体形	<i>katju:- <mi></i> (書いているか)
推量形	<i>katjiur-o:</i> (書いているだろう)
接続形	<i>katjiut-i</i> (書いていて)

終止形₁ *katju:i* (書いている) は通時的には接続形 *katji* に *uri* (居り) が結合してできたもの、すなわち「書いてをり」に対応するものである。終止形₂ は *katji* (書いて) *-uri* (居り) *-mu* (意志・推量の助動詞にあたる形式) の複合から成立している。上記の各活用形はこの *uri* の部分が活用したものである。また、これらの活用形の語幹 *katjiur* (または *katjiu*,

katju:) は音便の *katji* (書いて) をその語基に有しているが故に、音便派生語幹と称しうる。終止形・準体形では *katjiu* → *katju:* の融合を起こしている。

2.2 「既存」*katje:i* (書いてある) の活用

既存を表わす *katje:i* の活用は次の通りである。

未然形	<i>katjiʔar-a <ba></i> (書いてあらば)
条件形	<i>katjiʔar-i <ba></i> (書いてあれば)
連用形	<i>katjiʔa-i <du suru></i> (書いてありぞする。書いてあるんだ)
終止形 ₁	<i>katje:-i</i> (書いてある)
終止形 ₂	<i>katje:-n</i> (書いてある)
連体形	<i>katje:-n <tsʔu></i> (書いてある人)
準体形	<i>katje:- <mi></i> (書いてあるか)
推量形	<i>katjiʔar-o:</i> (書いてあるだろう)
終止形	<i>katje:i</i> は通時的には接続形 <i>katji</i> に

ʔari (有り) が結合してできたもの、すなわち「書いてあり」から成立している。上記活用形はこの *ʔari* の部分が活用したものである。但し、終止形₂ *katje:n* は *katji* (書いて) *-ʔari* (有り) *-mu* (意志・推量の助動詞にあたる形式) の複合から成立している。また、これらの活用形の語幹 *katjiʔar* (または *katjiʔa*, *katje:*) は「継続」の場合と同様、音便の *katji* を語基に有しているの、音便派生語幹の一種である。終止形等の語幹は *katjiʔa* → *katje:* の融合を起こしている。

2.3 「完了」*katjai* (書いた) の活用

完了を表わす *katʃai* は次のように活用する。

連用形 *katʃa-i* (書いたり)

終止形₁ *katʃa-i* (書いた)

終止形₂ *katʃa-n* (書いた)

連体形 *katʃa-n <tsʔu>* (書いた人)

準体形 *katʃa- <mi>* (書いたか)

推量形 *katʃar-o:* (書いたらう)

終止形 *katʃai* は通時的には連用形 *kaki* (書き) に *tari* (たり) が結合してできたもので、上記活用形はこの *tari* の部分が活用したものである。なお、終止形₁ *katʃai* は *katʃa* と同発

音される。終止形₂ は *kaki* (書き) - *tari* (たり) - *mu* (意志・推量の助動詞にあたる形式) の複合から成立している。これらの活用形の語幹 *katʃar* (または *katʃa*) も「継続」「既存」の場合と同様、音便派生語幹の一種である。

2.4 活用表

以上述べてきた *katʃu:i* (書いている), *katʃe:i* (書いてある), *katʃa* (書いた) の活用を示すと、第8表の通りとなる。

第8表

動詞	語幹	志向形	否定形	未然形	条件形	命令形	禁止形	連用形	終止形 ₁	終止形 ₂	連体形	準体形	推量形	接続形
書いている (継続)	<i>katʃiu</i>	<i>ra,ro:ra,ra:</i>	<i>ra</i>	<i>ri</i>	<i>ri</i>	<i>n</i>	<i>i</i>				<i>n</i>		<i>ro:</i>	<i>ti</i>
	<i>katʃu:</i>							<i>i</i>	<i>n</i>			-		
書いてある (既存)	<i>katʃiʔa</i>	$\Delta \Delta$	$\Delta \Delta$	<i>ra</i>	<i>ri</i>	Δ	Δ	<i>i</i>					<i>ro:</i>	Δ
	<i>katʃe:</i>								<i>i</i>	<i>n</i>	<i>n</i>	-		
書いた(完了)	<i>katʃa</i>	$\Delta \Delta$	$\Delta \Delta$	Δ	Δ	Δ	Δ	<i>i</i>	<i>i</i>	<i>n</i>	<i>n</i>	-	<i>ro:</i>	Δ

以下、各活用形の用例を示す。「継続」の用例を中心に示すが、「既存」「完了」の例も多少あげる。

(ア) 志向形

dʒi: katʃiura (字を書いている)

dʒi: katʃiuero: (字を書いている)

(イ) 否定形

dʒi: katʃiura n (字を書いていない)

dʒi: katʃiura: (字を書いていない)

(ウ) 未然形

dʒi: katʃiura sun (字を書いておらせる)

(エ) 条件形

dʒi: katʃiuri ba jutasam mun (字を書い

ておればよいものを)

(オ) 命令形

dʒi: katʃiuri (字を書いておれ)

命令形は *katʃu:ri* となる時もある。

dʒi: katʃu:ri (字を書いておれ)

wa ŋa kakjun ʔe:da mattʃuri (私が書く間待っておれ)

(カ) 禁止形

dʒi: katʃiun na (字を書いておるな)

(キ) 連用形

dʒi: katʃiui busa (字を書いていた)

ʔidʒai tʃʔai sui (行ったり来たりする)

rutai raritai sui (降ったり晴れたりする)

(ク) 終止形₁

dʒi: katʃu:i (字を書いている)
 ssa tutu:i (草を取っている)
 mɪdzu bakkai nudui (水ばかり飲んでい
 る)
 fiɣutu ssui (仕事をしている)
 ʔuttu ɣa tʃʔu:i (弟がきている)
 ruma ni dʒi: katʃe:i (ここに字が書いて
 ある)

ssa tute:i (草を取ってある)
 fiɣutu fe:i ja (仕事をしてあるね)
 na: katʃai (もう書いた)
 kʔinju: ssa tuta (昨日草を取った)
 ʔuttu ɣa tʃʔa (弟が来た)
 kʔinju: fiɣutu ssa (昨日仕事をした)

(ク) 終止形₂

dʒi: katʃu:n (字を書いている)
 katʃu:n do: (書いているぞ)
 tutu:n do: (取っているぞ)
 ʔaɣ kwa: ʔuja ni nitʃun (あの子は親に
 似ている)
 ʃi: nu juda haritun (木の枝が枯れてい
 る)
 ruma ni dʒi: katʃe:n (ここに字が書いて
 ある)
 dʒi: katʃan (字を書いた)
 wa:sai ni ʔidʒan do: (若い頃に行ったぞ)
 wutti: tʃʔan do: (おとといきたぞ)

(ク) 連体形

katʃium muno nu: ɣa (書いているものは
 なにか)

(ク) 準体形

dʒi: katʃu: so: ʔaraɣ ka (字を書いてい
 るのだろうか)
 dʒi: katʃu: te: ʔabira nnen ʔukī (字
 を書いているならば呼ばないでおけ)

(ク) 推量形

dʒi: katʃiuro: (字を書いているだろう)
 ʔimi ntʃa mitʃaro: (夢などみたんでしょ
 う)

(ク) 接続形

da ja katʃiuti mu wano: kaka n do:
 (君は書いていても私は書かないぞ)

2.5 他の動詞の「継続」「既存」「完了」

以上は kakjui (書く) の「継続」 katʃu:i
 (書いている)・「既存」 katʃe:i (書いてあ
 る)・「完了」 katʃai (書いた) の各形式の
 活用である。但し、活用形の用例のところでは
 多少他の動詞の用例も示した。

次に、他の動詞の「継続」「既存」「完了」
 の活用についてであるが、これらも kakjui (書
 く) の場合におけるとほぼ同様に活用する。
 他の動詞においても、「継続」「既存」は、「
 接続形+居り」「接続形+有り」にあたる形式
 から、また「完了」は「連用形+たり」にあ
 たる形式から成立している。そして、これらの活
 用は、その「居り」「有り」「たり」にあたる
 部分が活用して形成されるという点、kakjui
 (書く) の場合におけると全く同じである。従
 って、他の動詞の場合は、これらの「継続」「
 既存」「完了」の終止形だけがわかればよい。
 それらの活用は kakjui (書く) の場合に従
 って活用させていけばよいからである。

以下、各動詞の「継続」「既存」「完了」の
 終止形を示す。

「継続」

	終止形 ₁	終止形 ₂
働いている	fataratʃu:i	fataratʃu:n
行っている	ʔidʒu:i	ʔidʒu:n
潜んでいる	fudʒu:i	fudʒu:n

死んでいる	ʃidʒu:i	ʃidʒu:n	「既存」		
殺している	fittʃui	fittʃun		終止形 ₁	終止形 ₂
立っている	tattʃui	tattʃun	働いてある	fataratʃe:i	fataratʃe:n
飛んでいる	tudu:i	tudu:n	行っている	?idʒe:i	?idʒe:n
結んでいる	kʔuttʃui	kʔuttʃun	漕いである	fudʒe:i	fudʒe:n
眠っている	nittu:i	nittu:n	死んである	ʃidʒe:i	ʃidʒe:n
被っている	hattui	hattun	(死んでしまっている)		
読んでいる	judu:i	judu:n	殺してある	fittʃe:i	fittʃe:n
包んでいる	tsʔundui	tsʔundun	飛んである	tude:i	tude:n
食べている	kadu:i	kadu:n	(飛んでしまっている)		
取っている	tutu:i	tutu:n	結んである	kʔuttʃe:i	kʔuttʃe:n
刈っている	hatu:i	hatu:n	眠っている	nitte:i	nitte:n
切っている	kʔitʃu:i	kʔitʃu:n	被っている	hatte:i	hatte:n
いらしている	?umo:tʃui	?umo:tʃun	読んである	jude:i	jude:n
着ている	kʔitʃui	kʔitʃun	包んである	tsʔunde:i	tsʔunde:n
煮ている	nitʃui	nitʃun	食べてある	kade:i	kade:n
見ている	mitʃui	mitʃun	取っている	tute:i	tute:n
坐っている	jitʃui	jitʃun	刈っている	hate:i	hate:n
笑っている	wara:tui	wara:tun	切っている	kʔitʃe:i	kʔitʃe:n
洗っている	?ara:tui	?ara:tun	いらしてある	?umo:tʃe:i	?umo:tʃe:n
思っている	?umutui	?umutun	着てある	kʔitʃe:i	kʔitʃe:n
買っている	fo:tui	fo:tun	煮てある	nitʃe:i	nitʃe:n
言っている	?itʃui	?itʃun	見てある	mitʃe:i	mitʃe:n
受けている	?ukitu:i	?ukitu:n	坐っている	jitʃe:i	jitʃe:n
上げている	?aʒitu:i	?aʒitu:n	笑っている	warate:i	warate:n
蹴っている	ʃitu:i	ʃitu:n	(笑ってしまっている)		
呼んでいる	?abitu:i	?abitu:n	洗っている	?arate:i	?arate:n
起きている	wi:tui	wi:tun	(思う)	△	△
落ちている	kʔantitu:i	kʔantitu:n	買っている	fo:te:i	fo:te:n
居ている	wutui	wutun	言っている	?itʃe:i	?itʃe:n
(有る)	△	△	受けてある	?ukite:i	?ukite:n
している	ssui	ssun	上げてある	?aʒite:i	?aʒite:n
来ている	tʃʔu:i	tʃʔu:n	蹴っている	ʃite:i	ʃite:n
			呼んである	?abite:i	?abite:n

起きてある	wiːte:i	wiːte:n	刈った	hatai	hatan
(起きてしまっている)			切った	kʔitʃai	kʔitʃan
落ちてある	kʔantite:i	kʔantite:i	いらした	ʔumo:tʃai	ʔumo:tʃan
(落ちてしまっている)			着た	kʔitʃai	kʔitʃan
(居る)	△	△	煮た	nitʃai	nitʃan
(有る)	△	△	見た	mitʃai	mitʃan
してある	ʃʃei	ʃʃen	坐った	jitʃai	jitʃan
来てある	tʃʔe:i	tʃʔe:n	笑った	wara:tai	wara:tan
			洗った	ʔara:tai	ʔara:tan
「完了」			思った	ʔumutai	ʔumutan
	終止形 ₁	終止形 ₂	買った	fo:tai	fo:tan
働いた	fataratʃai	fataratʃan	言った	ʔitʃai	ʔitʃan
行った	ʔidʒai	ʔidʒan	受けた	ʔukitai	ʔukitan
漕いだ	fudʒai	fudʒan	上げた	ʔaŋitai	ʔaŋitan
死んだ	ʃidʒai	ʃidʒan	蹴った	çitai	çitan
殺した	fittʃai	fittʃan	呼んだ	ʔabitai	ʔabitan
立った	tattʃai	tattʃan	起きた	wi:tai	wi:tan
飛んだ	tudai	tudan	落ちた	kʔantitai	kʔantitan
結んだ	kʔuttʃai	kʔuttʃan	居た	wutai	wutan
眠った	nittai	nittan	有った	ʔatai	ʔatan
被った	hattai	hattan	した	ssai	ssan
読んだ	judai	judan	来た	tʃʔai	tʃʔan
包んだ	tsʔundai	tsʔundan			
食べた	kadai	kadan			
取った	tutai	tutan			

なお、「完了」の終止形₁はfataratʃa(働いた)ʔidʒa(行った)等のように、末尾のi母音が脱落する傾向がある。

3 所属動詞

志戸桶方言の活用の型は、前述したように、大きくⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ類に分かれる。そのうちⅢ・Ⅳ・Ⅴ類は不規則活用で、これらに属して活用する語は次のように限られている。

Ⅲ類	wui (居る)	ʔai (有る)
Ⅳ類	sui (する)	mikkasun (黙る)
Ⅴ類	kju:i (来る)	

Ⅳ類には sui 以外に mikkasun 等のように、多少の複合語が属している可能性がある。因に mikkasun はおおよそ次のように活用する。
mikkasuro: (黙ろう) mikkasura n (黙らない) mikkaji: busai (黙りたい)
mikkassui (黙っている) mikkassa (黙った)

I・II類は規則活用で、この両類には、これまで活用表で示してきたもの以外にも多くの動詞が属して活用する。以下、調査しえた動詞をその活用の型に従っておおまかに分類して示す。またく > の中には概略活用させた形式を入れて示す。

I類所属動詞

1. ?akkjun (歩く) < ?akka ja: (歩こうね) ?akko: (歩こう) ?akka n (歩かない) ?akki busa (歩きたい) ?attfui (歩いている) ?attfa (歩いた) >
 ?iqkjun (動く) < ?iqka ja: (動こうね) ?iqko: (動こう) ?iqka: (動かない) ?iqki busa (動きたい) ?intfui (動いている) ?intfe:i (動いてある) ?intfa (動いた) >
 ?ukjui (置く) < ?uko: (置こう) ?uka n (置かない) ?uku na (置くな) ?uki busa (置きたい) >
 ?udukkjujui (驚く) < ?udukka n (驚かない) ?uduttji (驚いて) ?uduttjun (驚いている) >
 kakjun (欠く) < kako: (欠こう) kaka: (欠かない) kaki busa (欠きたい) katfui (欠いている) katfe:i (欠いてある) katfa (欠いた) >
 k?uitsukjun (くいつく) < k?uitsuka n (くいつかない) k?uitsufui (くいつく) k?uitsutfa (くいついた) >
 ha:rakjun (乾く) < ha:raka: (かわかない) ha:raki gurusa (かわきにくい) ha:ratfui (かわいている) ha:ratfa (かわいた) >
 k?ikjun (聞く) < k?ika ja: (聞こうね)

k?ika n (聞かない) k?iki busa (聞きたい) k?itfui (聞いている) k?itfe:i (聞いている) k?itfa (聞いた) >
 sakjun (裂く) < sako: (裂こう) saka: (裂かない) saki busa (裂きたい) satfui (裂いている) satfe:i (裂いてある) satfa (裂いた) >

ts?ukjun (突く) < ts?uko: (突こう) ts?uka n (突かない) ts?uki busa (突きたい) ts?utfui (突いている) ts?utfe:i (突いてある) >
 ts?udzukjujui (続く) < ts?udzuka: (続かない) ts?udzutfui (続いている) >
 ts?ukjun (着く) ts?ukjun (搗く) tudukjun (届く) nakjujui (泣く) pakjun (吐く) fo:kjujui (掃く) pukjujui (吹く) fukjujui (拭く) tubukjujui (ほどく) makjun (巻く) jakjujui (焼く) wakjujui (湧く)

kakjujui (書く)と tujui (取る)の混合活用的な語も存する。次の語がそれで、その活用をくわしく調査して第2表の中に位置づける必要があるが、今回の調査ではこれはなしえなかった。

ts?ukkjun (作る) < ts?ukko: (作ろう) ts?ukka n (作らない) ts?ukui busa (作りたい) ts?ukutui (作っている) ts?ukute:i (作ってある) ts?ukuta (作った) >

2. ?o:ŋjun (扇ぐ) < ?o:ŋa ja: (扇ごうね) ?o:ŋo: (扇ごう) ?o:ŋa n (扇がない) ?o:ŋi busa (扇ぎたい) ?o:-dŋui (扇いでいる) ?o:dŋa (扇いだ) >
 ?o:ŋjujui (泳ぐ) < ?o:ŋo: (泳ごう) ?o:ŋa n (泳がない) ?o:ŋi busa (泳ぎ

たい) ʔo:dzui (泳いでいる) ʔo:dʒan
(泳いだ) >
tuŋjui (研ぐ) < tuga: (研がない)
tudʒu:i (研いでいる) tudʒe:i (研い
である) tudʒa (研いだ) >
niŋŋjun (握る) < niŋŋa n (握らない)
nintʃun (握っている) nintʃe:i (握って
ある) nintʃa (握った) niŋŋjunは第2
表での fupjun (漕ぐ)とは活用が多少異な
る。>

no:ŋjui (拭う) < no:ŋa: (ぬぐわない)
no:dʒui (ぬぐっている) no:dʒa (ぬぐ
った) >

no:ŋjui (縫う) < no:ŋa: (縫わない)
no:dʒui (縫っている) no:dʒe:i (縫っ
てある) no:dʒa (縫った) >

tsʔuŋjun (注ぐ) < tsʔuga: (注がな
い) tsʔudzu:i (注いでいる) tsʔudze:-
i (注いである) tsʔudza (注いだ) >

nuŋjui (脱ぐ) miŋŋjui (めぐる)
jusuŋjui (ゆすぶる)

3. nasui (産む) < nasa: (産まない)
natʃu:i (産んでいる) natʃe:i (産んで
ある) natʃa (産んだ) >

ʔusui (押す) < ʔuso: (押そう)
ʔusa n (押さない) ʔusu na (押すな)
ʔutsuiまたはʔutʃui (押している)
ʔutse:iまたはʔutʃe:i (押してある)
ʔutʃan (押した) >

harasun (貸す) < haraso: (貸そう)
harasa n (貸さない) haraʃi busa (貸
したい) haratʃu:i (貸している)
haratʃe:i (貸してある) haratʃa (貸し
た) >

kʔuddasui (崩す) < kʔuddaso: (崩そ

う) kʔuddasa n (崩さない) kʔuddaʃi
busa (崩したい) kʔuddatʃui (崩してい
る) kʔuddatʃe:i (崩してある) kʔudda-
tʃa (崩した) >

kʔija:sui (消す) < kʔijaso: (消そう)
kʔijasa:(消さない) kʔijaʃi busa (消
したい) kʔijatʃu:i (消している)
kʔijatʃe:i (消してある) kʔijatʃa (消
した) >

kuŋasun (焦がそう) < kuŋaso: (焦がそう)
kuŋasa:(焦がさない) kuŋaʃi busa (焦がした
い) kuŋatʃu:i (焦がしている) kuŋatʃe:i (焦
がしてある) kunatʃa (焦がした) >

fubusui (こぼす) < fubuso: (こぼそ
う) fubusa: (こぼさない) fubuʃi
busa (こぼしたい) fubutʃui (こぼして
いる) fubutʃe:i (こぼしてある)
fubutʃa (こぼした) >

sasui (刺す) < saso: (刺そう)
sasa: (刺さない) saʃi busa (刺した
い) satʃu:i (刺している) satʃe:i (刺
してある) satʃa (刺した) >

ʔidʒasui (出す) < ʔidʒaso: (出そう)
ʔidʒasa: (出さない) ʔidʒatʃu:i (出
している) ʔidʒatʃe:i (出してある)
ʔidʒatʃa (出した) >

kunasun (叱る) < kunaso: (叱ろう)
kunasa: (叱らない) kunatʃui (叱って
いる) kunatʃe:i (叱ってある) kunatʃa
(叱った) >

damasun (だます) < damaso: (だまそ
う) damasa n (だまさない) damatʃui
(だましている) damatʃe:i (だましてある)
damatʃa (だました) > kʔwasui (釣る)

< kʔwasa: (釣らない) kʔwatsu:iまたは

- kʷatʃu:i (釣っている) kʷatʃe:i (釣ってある) >
 no:sui (治す) < no:so: (治そう)
 no:sa n (治さない) no:tʃui (治している)
 no:tʃe:i (治してある) no:tʃa (治した) >
 no:sui (直す) nubasui (伸ばす)
 panasui (放す) musui (蒸す) juru-
 sui (許す)
4. ʔutʃun (打つ) < ʔuta ja: (打とう
 ね) ʔuto: (打とう) ʔuta: (打たない)
 ʔutʃi busa (打ちたい) ʔuttʃui (打っ
 ている) ʔuttʃe:i (打ってある) ʔuttʃa
 (打った) >
 katʃun (勝つ) < kato: (勝とう)
 kata: (勝たない) katʃi busa (勝ちた
 い) kattʃi (勝って) kattʃun (勝って
 いる) >
 pattʃun (脱ぐ) < patta n (脱がない)
 pattʃiu:n (脱いでいる) pattʃe:i (脱い
 である) pattʃa (脱いだ) >
 matʃui (待つ) mitʃui (満つ) mutʃui
 (持つ)
5. ʔukabʃui (浮ぶ) < ʔukaba ja: (浮
 ぼうね) ʔukabo: (浮ぼう) ʔukaba:
 (浮ばない) ʔukabi busa (浮びたい)
 ʔukadui (浮んでいる) ʔukada (浮ん
 だ) >
 ʔinabʃun (選ぶ) < ʔinabo: (選ぼう)
 ʔinaba n (選ばない) ʔinabi busai (選
 びたい) ʔinadui (選んでいる)
 ʔinade:n (選んである) ʔinadan (選
 んだ) >
 jabʃun (やぶる) < jabbo: (やぶろ
 う) jabba: (やぶらない) jabbi busa
 (やぶりたい) jattu:i (やぶっている)
- ʃatte:i (やぶってある) jatta (やぶ
 った) > ʃibʃui (吸う) < ʃibbo: (吸
 おう) ʃibba: (吸わない) ʃibbi bu-
 sa (吸いたい) ʃittui (吸っている)
 ʃitta (吸った) >
 niʃʃui (寝る) nubʃui (伸ぶ) paku-
 bʃui (運ぶ) jurukubʃui (喜ぶ) >
6. ʔamʃui (編む) < ʔama ja: (編もう
 ね) ʔamo: (編もう) ʔama: (編まな
 い) ʔami busa (編みたい) ʔadu:i (編
 んでいる) ʔade:i (編んである) ʔada
 (編んだ) >
 jamʃun (病む) < jama: (病まない)
 jadu:i (病んでいる) jada (病んだ) >
 ʔummʃui (埋める) < ʔummo: (埋めよ
 う) ʔumma: (埋めない) ʔummi busa
 (埋めたい) ʔundu:i (埋めている)
 ʔunde:i (埋めてある) ʔunda (埋めた) >
 ʔugamʃui (拌む) < ʔugamo: (拌もう)
 ʔugama n (拌まない) ʔugadun (拌んで
 いる) ʔugadan (拌んだ) >
 hamʃun (嗅ぐ) < hamo: (嗅ごう)
 hama n (嗅がない) hami busa (嗅ぎ
 たい) hadu:i (嗅いでいる) hade:i (嗅
 いである) hada (嗅いだ) >
 kamʃun (噛む) < kamo: (噛もう)
 kama: (噛まない) kami busa (噛みた
 い) kadu:i (噛んでいる) kade:i (噛
 んである) kada (噛んだ) >
 kʷumʃun (汲む) < kʷumo: (汲もう)
 kʷuma n (汲まない) kʷumi busa (汲み
 たい) kʷudu:i (汲んでいる) kʷude:i
 (汲んである) kʷuda (汲んだ) >
 kʷudʒumʃun (くすぐる) < kʷudʒumo:
 (くすぐろう) kʷudʒuma: (くすぐらな

い) kʔudzumi busa (くすぐりたい)
 kʔudzudui (くすぐっている) kʔudzuda
 (くすぐった) >
 fidzumjui (沈む) < fidzuma: (沈ま
 ない) fidzumi gurusa (沈みにくい)
 fidzudui (沈んでいる) fidzuda (沈ん
 だ) >
 ?umjui (熟む) < ?uma: (熟まない)
 ?umi ?ammaasa (熟みにくい) ?udu:i
 (熟んでいる) ?uda (熟んだ) >
 numjui (飲む) < numo: (飲もう)
 numa: (飲まない) numi busa (飲みた
 い) nudu:i (飲んでいる) nude:i (飲
 んでいる) nuda (飲んだ) >
 sudamjui (涼む) < sudama (涼もう)
 sudama: (涼まない) sudami busa (涼
 みたい) sudadui (涼んでいる) sudada
 (涼んだ) >
 sumjun (済む) < suma: (済まない)
 sudu:i (済んでいる) suda (済んだ) >
 tammjun (頼む) < tammo: (頼もう)
 tamma n (頼まない) tammi busa (頼
 みたい) tandu:i (頼んでいる) tande:-
 i (頼んである) tanda (頼んだ) >
 kʔamjun (掴む) < kʔamo: (掴もう)
 kʔama: (掴まない) kʔami busa (掴み
 たい) kʔadu:i (掴んでいる) kʔade:i
 (掴んである) kʔada (掴んだ) >
 nusumjui (盗む) < nusuma n (盗ま
 ない) nusudui (盗んでいる) nusude:-
 i (盗んである) nusuda (盗んだ) >
 numjun (飲む) hasamjui (はさむ)
 kʔumjui (踏む) jasumjui (休む)

7. ?aʔajun (上がる) < ?aʔara (上が
 ろう) ?aʔaro: (上がろう) ?aʔara: (

上がらない) ?aʔaibusu (上がりたい)
 ?aʔatui (上がっている) ?aʔata (上が
 った) >
 ?inujui (祈る) < ?inura (祈ろう)
 ?inuro: (祈ろう) ?inura: (祈らない)
 ?inui busa (祈りたい) ?inutui (祈っ
 ている) ?inute:i (祈ってある) ?inu-
 ta (祈った) >
 ?utajui (歌う) < ?utara (歌おう)
 ?utaro: (歌おう) ?utara: (歌わない)
 ?utai busa (歌いたい) ?utatui (歌っ
 ている) ?utata (歌った) >
 ?utaʔajui (疑う) < ?utaʔara: (疑わ
 ない) ?utaʔai busa (疑いたい)
 ?utaʔatu:i (疑っている) ?utaʔata (疑
 った) >
 ?ujui (売る) < ?uro: (売ろう)
 ?ura: (売らない) ?ui busa (売りたい)
 ?utu:i (売っている) ?ute:n (売ってあ
 る) ?uta (売った) >
 ?ukujun (送る) < ?ukuro: (送ろう)
 ?ukura n (送らない) ?ukui busa (送
 りたい) ?ukutui (送っている) ?uku-
 te:i (送ってある) ?ukuta (送った) >
 wudujui (踊る) < wuduro: (踊ろう)
 wudura n (踊らない) wudui busa (踊
 りたい) wudutui (踊っている) wudu-
 tan (踊った) >
 ?ufi:jui (教える) < ?ufi:ro: (教え
 よう) ?ufi:ra n (教えない) ?ufi:bu-
 sa (教えたい) ?ufi:tun (教えている)
 ?ufi:te:n (教えてある) ?ufi:ta (教
 えた) >
 hatajun (教える) < hataro: (教えよ
 う) hatara n (教えない) hatatui (

教えている) hatatan (教えた) >
 wujui (折る) < wuro: (折ろう)
 wura n (折らない) wui busa (折りた
 い) wutui (折っている) wute:i (折
 っている) wutan (折った) >
 ?ujun (織る) < ?uro: (織ろう)
 ?ura n (織らない) ?ui busa (織りた
 い) ?utui (織っている) ?utan (織っ
 た) >
 k?ana:jui (飼う) < k?ana:ro: (飼お
 う) k?ana:ra: (飼わない) k?ana:i
 busa (飼いたい) k?ana:tui (飼って
 いる) k?ana:te:i (飼っている) k?ana:
 ta (飼った) >
 mudujun (戻る) < muduro: (戻ろう)
 mudura n (戻らない) mudui busa (戻
 りたい) mudutui (戻っている) mudu-
 ta (戻った) >
 kandzo:jun (数える) < kandzo:ro: (数
 えよう) kandzo:ra n (数えない)
 kandzo:tui (数えている) kandzo:te:i
 (数えてある) kandzo:ta (数えた) >
 rabajui (固まる) < rabara: (固まら
 ない) rabatu:i (固まっている)
 rabata (固まった) >
 hajun (借りる) < haro: (借りよう)
 hara: (借りない) hai busa (借りたい)
 hatui (借りている) hate:i (借りて
 ある) hata (借りた) >
 hawajun (変わる) < hawaro: (変ろう)
 hawara: (変わらない) hawai busa (変
 わりたい) hawatui (変わっている)
 hawata (変った) >
 sujui (こする) < suro: (こすろう)
 sura: (こすらない) sui busa (こすり

たい) sutu:i (こすっている) sute:i
 (こすっている) suta (こすった) >
 ma:jun (転ぶ) < ma:ro: (転ぼう)
 ma:ra: (転ばない) ma:i busa (転びた
 い) ma:tui (転んでいる) ma:ta (転
 んだ) >
 sawajui (さわる) < sawaro: (さわ
 ろう) sawara: (さわらない) sawai
 busa (さわりたい) sawatui (さわって
 いる) sawate:i (さわっている)
 sawata (さわった) >
 fibajun (しぼる) < fibaro: (しぼろ
 う) fibara n (しぼらない) fibai bu-
 sa (しぼりたい) fibatui (しぼって
 いる) fibate:i (しぼっている) fibata
 (しぼった) >
 ku:jun (閉める) < ku:ro: (閉めよう)
 ku:ra n (閉めない) ku:i busa (閉め
 たい) ku:tui (閉めている) ku:te:i
 (閉めてある) ku:ta (閉めた) >
 fijun (知る) < fira: (知らない)
 fi: busa (知りたい) fittsui (知って
 いる) fittsa (知った) >
 sujui (磨る) < suro: (磨ろう)
 sura: (磨らない) sui busa (磨りたい)
 sutu:i (磨っている) sute:i (磨って
 ある) suta (磨った) >
 sujui (剃る) < suro: (剃ろう)
 sura: (剃らない) sui busa (剃りたい)
 sutu:i (剃っている) sute:i (剃って
 ある) suta (剃った) >
 k?ajui (使う) < k?aro: (使おう)
 k?ara: (使わない) k?ai busa (使いた
 い) k?atu:i (使っている) k?ate:i (使
 っている) k?ata (使った) >

?ijun (射る) < ?ira (射よう)
 ?iro: (射よう) ?ira: (射らない)
 ?i: busa (射りたい) ?itu:i (射っている)
 ?ite:i (射ってある) ?ita (射った)>
 ts?ujui (釣る) < ts?ura: (釣らない)
 ts?utu:i (釣っている)>
 tumajui (泊まる) < tumara: (泊らない)
 tumatui (泊っている)>
 najui (鳴る) nujun (塗る) nukujui
 (残る) nujun (乗る) po:jun (這う)
 pa:jui (計る) ?ijui (入る) pa?ijui
 (走る) pikajui (光る) ?ippajui (引張る)
 pijui (干る) pijui (放る)
 pukkjujui (ふくれる) fujui (降る)
 fujui (振る) finajui (減る) fujui
 (掘る) ma?ajui (曲がる) ma:jui (まわる)
 ju:jui (酔う) juwajui (弱る) wajui (割る)

8. k?ira:jun (きらう) < k?ira:wa n
 (きらわない) k?ira:tui (きらっている)
 k?ira:ta (きらった)>
 surujui (揃う) < suruwa: (揃わない)
 surui ?amma: (揃いにくい) surutui
 (揃っている) suruta (揃った)>
 ?o:jui (会う) < ?o:ra (会おう)
 ?o:wo: (会おう) ?o:wa: (会わない)
 ?o:i busa (会いたい) ?o:tui (会っている)
 ?o:ta (会った)>
 murajui (もらう) < murawo: (もらおう)
 mura:ra n (もらわない) murai
 busa (もらいたい) mura:tun (もらっている)
 mura:te:i (もらってある)
 mura:tan (もらった)>

調査しえた動詞で I 類の型に属して活用する

ものは以上の通りである。第 2 表では示していないが、他に ?appjun (遊ぶ) という動詞があり、これは第 2 表では tat?ui (立つ) と tub?ui (飛ぶ) との間に位置づけて表示すべきである。

?appjun (遊ぶ) < ?appa (遊ぼう) ?a-
 ppo: (遊ぼう) ?appa n (遊ばない)
 ?appi busa (遊びたい) ?attui (遊んでいる)
 ?atta (遊んだ)>

Ⅱ 類所属動詞

Ⅱ 類の所属動詞は甲類・乙類に大きく分けて示すことにする。

甲類

wikkijun (追いかける) < wikkira (追いかけよう)
 wikkiro: (追いかけよう) wikkira n (追いかけない)
 wikki busa (追いかけてい) wikkitan (追いかけてい) >
 kakijui (欠ける) < kakira: (欠けない)
 kakitui (欠けている) kakita (欠けた) >
 k?uttsukijun (くつつける) < k?uttsukiro:
 (くつつけよう) k?uttsukira: (くつつけない)
 k?uttsukibusa (くつつけたい) k?uttsukitui
 (くつつけている) k?uttsukite:i (くつつけてある)
 k?uttsukita (くつつけた) >
 ?ikkijun (けんかする) < ?ikkira: (けんかしよう)
 ?ikkira n (けんかしない) ?ikkibusa
 (けんかしたい) ?ikkitu:i (けんかしている)
 ?ikkite:i (けんかしてある) ?ikkita (けんかした) >
 tasikijui (助ける) < tasikira: (助け
 ない) tasikibusa (助けたい) tasikitu:i
 (助けている) tasikite:i (助けて

ある) tasikita (助けた) >
tukijui (とける) fukkijui (脹れる. ふくれる) makijui (負ける) mikkijui (みつける) ?atsumijui (集める)
nuggijun (すべる) < nuggi:ro: (すべろう) nuggira n (すべらない) nuggi busa (すべりたい) nuggitu:i (すべっている) nuggite:i (すべってある) nuggita (すべった) >
haggijun (背負う) < haggi:ro: (背負おう) haggiira n (背負わない) haggi busa (背負いたい) haggi:tu:i (背負っている) haggi:te:i (背負ってある) haggi:ta (背負った) >
nagijun (投げる) juggijun (にごる) pagijun (禿げる) pirugijun (広げる) magijun (曲げる) nigijun (逃げる)
çijun (越える) < çi:ro: (越えよう) çi:ra n (越えない) çi: busa (越えたい) çi:tui (越えている) çi:te:i (越えてある) çi:ta (越えた) >
harabbijun (のどがかわく) < harabbira n (かわかない) harabbitu:n (かわいている) harabbita (かわいた) >
k?urabijun (比べる) < k?urabi:ro: (比べよう) k?urabira: (比べない) k?urabi busa (比べたい) k?urabitu:i (比べている) k?urabite:i (比べてある) k?urabita (比べた) >
fibbijun (萎れる) < fibbira: (萎れない) fibbitu:i (萎れている) fibbita (萎れた) >
wi:jun (植える) < wi:ra (植えよう) wi:ro: (植えよう) wi:ra: (植えない) wi: busa (植えたい) wi:tui (植えてい

る) wi:te:i (植えてある) wi:ta (植えた) >
tatijun (建てる) < tati:ro: (建てよう) tati:ra: (建てない) tati busa (建てたい) tatitui (建てている) tatite:i (建ててある) tatita (建てた) >
tijui (照る) nadijun (撫でる) maddijui (混ぜる)
tannijun (尋ねる) < tanni:ra: (尋ねない) tanni busa (尋ねたい) tannitu:i (尋ねている) tannita (尋ねた) >
panijun (はねる)
?atsumijun (集める) < ?atsumira (集めよう) ?atsumi:ro: (集めよう) ?atsumira: (集めない) ?atsumi busa (集めたい) ?atsumitu:i (集めている) ?atsimita (集めた) >
hammijun (隠す) < hammi:ro: (隠そう) hammira n (隠さない) hammi busa (隠したい) hammitu:i (隠している) hammite:i (隠してある) hammita (隠した) >
hatamijun (かつぐ) < hatami:ro: (かつごう) hatamira: (かつがない) hatami busa (かつぎたい) hatamitu:i (かついでいる) hatamita (かついだ) >
samijui (覚める) < sami:ro: (覚めよう) samira: (覚めない) sami busa (覚めたい) samitui (覚めている) samita (覚めた) >
simijun (締める) < simi:ro: (締めよう) simira: (締めない) simi busa (締めたい) simitui (締めている) simite:i (締めてある) simita (締めた) >
sumijun (染める) < sumi:ro: (染めよ

う) sumira: (染めない) sumi busa (染めたい) sumitui (染めている) sumite:i (染めてある) sumita (染めた) > tumijui (止める) < tumira: (止めない) tumitui (止めている) >

mi:jun (生える) radzimijui (始める) fumijui (ほめる) mi:jui (燃える) jamijui (やめる) namijun (なめる) darijun (疲れる, だれる) < darira n (疲れない) daritui (疲れている) darita (疲れた) >

darijun (萎れる) nurijui (濡れる) murijui (漏れる) hakkijun (暮れる)

以上の中で tatijun (建てる) nadijun (撫でる) tannijun (尋ねる) hammijun (隠す) darijun (疲れる) は, その活用を詳しく調査して, 第Ⅱ類甲の表に位置づける必要がある。

乙類

?ubuijui (覚える) < ?ubuirā (覚えよう) ?ubuirā n (覚えたい) ?ubui busa (覚えたい) ?ubuitui (覚えている)

?ubuitan (覚えた) >

kutaijui (答える) < kutairo: (答えよう) kutaira: (答えたい) kutai busa (答えたい) kutaitu:i (答えている)

kutaite:i (答えてある) kutaिता (答えた) >

k?i:jun (消える) < k?i:ra n (消えない) k?i:tui (消えている) k?i:ta (消えた) >

sugijun (過ぎる) < sugira: (過ぎない) sugi ?ammasa (過ぎにくい) sugitui (過ぎてある) sugita (過ぎた) >

hanna?ijun (捨てる) < hanna?iro: (捨てよう) hanna?ira n (捨てない)

hanna?i busa (捨てたい) hanna?itui (捨てている) hanna?ite:i (捨ててある) hanna?ita (捨てた) >

fi:jui (添える) < fi:ro: (添えよう) fi:ra: (添えない) fi: busa (添えたい) fi:tui (添えている) fi:te:i (添えてある) fi:ta (添えた) >

nufijui (乗せる) mifijui (見せる) ju?ijui (寄せる) wa?ijui (忘れる) findzijui (信じる) < findziro: (信じよう) findzira: (信じない) findzi busa (信じたい) findzitui (信じている) findzita (信じた) >

sudatijui (育てる) < sudatiro: (育てよう) sudatira: (育てない) sudati busa (育てたい) sudatitu:i (育てている) sudatite:i (育ててある) sudatita (育てた) >

?akirijui (飽きる) < ?akirira: (飽きない) ?akiritui (飽きている) ?akirita (飽きた) >

k?urijun (くれる) < k?urira (くれよう) k?uriro: (くれよう) k?urira n (くれはない) k?uri busa (くれたい) k?uritui (くれている) k?urite:i (くれてある) k?urita (くれた) >

k?urijun (暮れる) < k?urira n (暮れない) k?uri ?ammasa (暮れにくい) k?uritui (暮れている) k?urita (暮れた) >

?irijun (入れる) < ?irira (入れよう) ?i:ro: (入れよう) ?irira: (入れない) ?iri busa (入れたい) ?iritui (入れている) ?irite:i (入れてある) ?irita (

入れた) >

?umarijui (生れる) < ?umarira: (生れない) ?umaritu:i (生れている)

?umarita (生れた) >

?urijui (降りる) < ?uriro: (降りよう) ?urira: (降りない) ?uri busa (降りたい) ?uritun (降りている) ?uritan (降りた) >

ssarijui (くされる) < ssarira: (くされない) ssari ?ammasa (くされにくい) ssaritui (くされている) ssarita (くされた) >

harijui (枯れる) < harira: (枯れない) haritu:i (枯れている) harita (枯れた) >
 na?arijui (流れる) narijui (慣れる)
 pariujui (晴れる) midarijui (乱れる)
 wuriujui (折れる)

Ⅱ類乙は k?antijui (落ちる) の例のみを活用表に示した。Ⅱ類甲と平行的に活用表をつくるならば、語幹末尾音の異なる動詞を取り出して表示しなければならない。しかし、他の動詞も、ただ前部形式が異なるだけで、活用は k?antijun と全く同じである。

次に、以下に示す動詞も同じくⅡ類の活用ではあるが、基本語基語幹が甲・乙とは異なる。基本語基語幹は甲では CiC, 乙では CiC であるのに対し、これらの動詞では CëC である。これは連用形語尾が i になるか、i になるか、あるいは ë になるかの相違を示すが、それ以外では甲も乙も、またこれらの動詞も活用は全く同じである。但し、Ⅱ類の中で、甲と乙を分けるのであれば、これらの動詞も丙として活用表を示すべきであるが、ここでは活用表は省いてある。

?ë:jui (明ける) < ?ë:ra (明けよう)

?ë:ro: (明けよう) ?ë:ra: (明けない)
 ?ë: busa (明けたい) ?ë:tui (明けている)
 ?ë:te:i (明けてある) ?ë:ta (明けた) >

hë:jun (変える) < hë:ro: (変えよう)
 hë:ra n (変えない) hë: busa (変えたい)
 hë:tui (変えている) hë:te:i (変えてある)
 hë:ta (変えた) >

k?ë:jui (掛ける) < k?ë:ro: (掛けよう)
 k?ë:ra: (掛けない) k?ë: busa (掛けたい)
 k?ë:tui (掛けたい) k?ë:te:i (掛けてある)
 k?ë:ta (掛けた) >

k?ë:jun (賭ける) < k?ë:ro: (賭けよう)
 k?ë:ra: (賭けない) k?ë:tui (賭けている)
) >

ka?ë:jun (考える) < ka?ë:ro: (考えよう)
 ka?ë:ra: (考えない) ka?ë: busa (考えたい)
 ka?ë:tui (考えている) ka?ë:te:i (考えてある)
 ka?ë:ta (考えた) >

furë:jui (がまんする) < furë:ro: (がまんしよう)
 furë:ra: (がまんしない)

furë: busa (がまんしたい) furë:tui (がまんしている)
 furë:ta (がまんした) >

k?wë:jun (肥える) < k?wë:ro: (肥えよう)
 k?wë:ra: (肥えない) k?wë: busa (肥えたい)
 k?wë:tui (肥えている)
 k?wë:ta (肥えた) >

tumë:jun (さがす) < tumë:ro: (さがそう)
 tumë:ra: (さがさない) tumë: busa (さがしたい)
 tumë:tui (さがしている) tumë:te:i (さがしてある)
 tumë:ta (さがした) >

wë:jun (隔てる, 分ける) jë:jui (やせる)

形容詞の活用

1. 活用の分類

志戸桶方言の形容詞の活用をその語幹末尾の構造で分類してみると、大きく次の二つの類に分けられる。

I CV構造

II CV, CVCV構造

I類はまた、語幹末尾にQ(促音)があらわ

れるか否かによって二つに分けられ、その各々がさらに語幹末尾音の具体的な相異によって、いくつかの下位分類される。II類についても同様に分類される。

以上の分類をまとめて示してみると、次のようになる。

I CV	$\left\{ \begin{array}{l} 1 \text{ CV} \\ 2 \text{ Q} \end{array} \right.$	1イ -(i)a	ta: sai (高い)
		1ロ -(i)ë	pë: sai (早い)
		1ハ -tsu	?atsusai (暑い)
		1ニ -(i)o	ka jo: sai (痒い)
		1ホ -bi	?ubisai (大きい)
		1ヘ -(i)i	mi: sai (新しい)
		2イ -Q, -ru	wassai (悪い)
2ロ -Q	gassai (軽い)		
II CV, CVCV	$\left\{ \begin{array}{l} 1. \text{ CV, CVCV} \\ 2. \text{ Q, CV, CVCV} \end{array} \right.$	-da, -da:ji	middasai (珍しい)
		-Q, -ru, -ru:ji	?utussai (こわい)

IとIIはそれぞれ国語のク活・シク活に対応する。また、Iの2イ等のように、語幹末尾に

-Q(促音)と-ruがあらわれるものがあるが、これは-ruが-Qに交替したためである。

2. 活用体系

1で示した分類に基づいて、志戸桶方言の形容

詞の活用体系を示すと、第9表の通りになる。

第9表

形容詞の活用

分類	形容詞	語幹	未然形	条件形	連用形 ₁	連用形 ₂	終止形 ₁	終止形 ₂	終止形 ₃	連体形	準体形	推量形	接続形		
I	1イ	高い	ta:	sara	sari	ku	sa	sa	sai	san	san	sa	saro:	sati	
	1ロ	早い	pē:	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
	1ハ	暑い	?atsu	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
	1ニ	痒い	kajo:	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
	1ホ	大きい	?ubi	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
	1ヘ	新しい	mi:	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
	2イ	悪い	waQ	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
			waru			"									
2ロ	軽い	gaQ	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"		
II	1	珍しい	midda	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	
			middaji			"									
	2	こわい	?utuQ	"	"			"	"	"	"	"	"	"	
			?uturu			"	"								
		?uturufi			"										
主な接尾形式			ba (ば)	ba (ば)	najui (なる) ne: (ない) sun (する)	najui (なる) ne: (ない) sun (する)				体言	so: (のは) tan (た)				

以下、各活用形の用例を示す。

(㊦) 未然形

ta:sara ba fo:wa n (高かったら買わない)
 ?atsusara ba ?iku na (暑かったら行くな)
 fiḡarasara ba ?iku na (忙しかったら行
 くな)

(㊧) 条件形

ta:sari ba fo:wa n (高ければ買わない)
 ?atsusari ba ?iku na (暑ければ行くな)
 fiḡarasari ba ?iku na (忙しければ行く
 な)

(㊨) 連用形₁

finamun ḡa dandan ta:ku najui (品物が
 だんだん高くなる)

katto:fi: ?atsuku najui (だんだん暑く
 なる)

katto:fi: fiḡarafiku najui (だんだん忙
 しくなる)

hansu: ja ta:ku ne: (芋は高くない)

kju: ja ?atsuku ne: (今日は暑くない)

kju: ja fiḡarafiku ne: (今日は忙しくない)

o:ḡen ta:ku ne:n do: (決して高くないよ)

ta:ku ne: mun dḡa ḡa fo:jun tʃo: wu-
 ra n (高くないのだが、買う人はいない)

(㊩) 連用形₂

ta:sa nati nja: fo:wa ra n (高くなっ
 てもう買えない)

katto:fi: fiḡarasa najui (だんだん忙し
 くなる)

hansu: ja ta:sa ne: (芋は高くない)

kju: ja ?atsusa ne: (今日は暑くない)

kju: ja fiḡarasa ne: (今日は忙しくない)

o:ḡen ta:sa ne:n do: (決して高くないよ)

ta:sa ne: mun dḡa ḡa fo:jun tʃo: wura

n (高くないのだが、買う人はいない)

ta:sa fira m ba jutasan (高くしなければ
 よい)

ta:sa bakkai fi fitja:sa fira: (高くば
 かりして低くしない)

ta:sa su su na (高くするのか)

ta:sa su su kaja: (高くするのかしら)

ta:sa nen kaja: (高くないかしら)

ta:sa jen do: (高いですぞ)

natso: ?atsusa je:n nja (夏は暑いです
 か)

kju: ja ?ippai ?atsusa je:i ja (今日
 はとても暑いですね)

kju: ja ?ippai fiḡarasa je:i ja (今日
 はとても忙しいですね)

pē:sa turi (早く取れ)

(㊪) 終止形₁

Fun se: ja ta:sa (この酒は高い)

?iru ḡa tʃurasa ja: (色がきれいね)

(㊫) 終止形₂

Fun se: ja ta:sai (この酒は高い)

?ari mu furi mu jutasai (あれもこれも
 よい)

kjurasai ja: (美しいね)

natso: ?itsu mu ?atsusai (夏はいつも
 暑い)

njama: ?ippai fiḡarasai (今はとても忙
 しい)

(㊬) 終止形₃

Fun se: ja ta:san (この酒は高い)

Fure: ta:san nja: (これは高いか)

jappa: ta:san do: (やっぱり高いぞ)

Fun ta:sa jukka ta:san (この高さより高
 い)

natso: ?atsusan nja (夏は暑いか)

fujō: ſiſarasan nja (冬は忙しいか)

tsʔusan do: (強いぞ)

(㉞) 連体形

ta:sa:n se: ja fo:wa ra: (高い酒は買えない)

ta:sa:n ʔambe: dʒa (高そうだ)

ʔatsusam pe: ja fataraka ra n (暑い日は働けない)

ſiſarasam pe: ja jasuma ra n (忙しい日は休めない)

da ſa kaki ba jutasam mun (君が書けばよいものを)

(㉟) 準体形

su (の)に接する。

tʃa:ſiſſi ʔaſſi ſani ta:sa su jo: (どうしてそんなにまで高いか)

se: ſa ta:sa su dʒa: (酒が高いのだ)

din ſa ta:sa su kaja: (どれが高いのかしら)

ta:sa so: fo:wa n (高いのは買わない) mi (か)に接する。

ta:sa mi (高いか)

natso: ʔatsusa mi (夏は暑いか)

fujō: ſiſarasa mi (冬は忙しいか)

te: (~ならば)に接する。

ta:sa te: fo:wa n (高いならば買わない)

ʔatsusa te: ʔiku na (暑ければ行くな)

ta, tan (た)に接する。

ʔaſ kuro: dzuibun ta:sa tan do: (あの頃はずいぶん高かったぞ)

kʔitto ta:sa tan ni tʃʔige: ne: (きっと高かったにちがいない)

nja:nai ʔubisa tad do: ſa (もう少し大きかったでしょうが)

rudʒo: ʔippai ʔatsusa ta (去年は大変暑

かった)

rudʒo: ʔippai ſiſarasa ta (去年は大変暑しかった)

(㊱) 推量形

ʔan ʔijo: ta:saro: ja: (あの魚は高いだろう)

ʔatʃa: ʔatsusaro: (明日は暑いだろう)

ʔatʃa: ſiſarasaro: (明日は忙しいだろう)

(㊲) 接続形

ta:sati fo:wa ra n (高く買えない)

ʔatsusati ʔu:ſi ra n (暑くてかなわない)

ʔubisa kʔa: ra n (大きくて使えない)

ʔatsusati pate: kai ʔika ra n (暑くて畑へ行かれない)

ʔatsusati fataraka ra n (暑くて働けない)

ſiſarasati ʔika ra n (忙しくて行けない)

ſiſarasati ʔatʃa: ʔika ra n (忙しくて明日は行けない)

接続形はまた、そのままの形で「過去」の意味もあらわす。

rudʒo: ʔippai ʔatsusati (去年は大変暑かった)

rudʒo: ʔippai ſiſarasati (去年は大変暑しかった)

3. 所属形容詞

志戸桶方言の形容詞は大きくⅠ・Ⅱ類に分かれるが、以下、このⅠ類とⅡ類に属して活用する形容詞の語例を示す。

Ⅰ類

ta:sai (高い)と全く同じように活用するもの。

nagasai (長い) juwasai (弱い)

kʔurasai (暗い) wa:sai (若い)

ʔʔikasai (近い) pitʔfa:sai (低い)
 kjurasai (美しい) pakkasai (恥しい)
 ʔatsusai (暑い)と全く同じように活用するものに tsʔusai (強い) tu:sai (遠い)がある。

gassai (軽い)と全く同じように活用するものには ʔubussai (重い)がある。

また、以下の形容詞もその連用形からしてⅠ類に属して活用するものと解される。

ʔo:sai (青い) < ʔo:sa najui (青くなる)
 ʔo:ku najui (青くなる) ʔo:sari ba (青ければ)>

ʔa:sai (赤い) < ʔa:ku najui (赤くなる)
 ʔa:sari ba (赤ければ)>

nukusai (温い) < nukuku najui (温くなる)>

ʔatʔisai (厚い) < ʔatʔiku najui (厚くなる)>

ʔamasai (甘い) < ʔamaku najui (甘くなる)>

ʔarasai (荒い) < ʔaraku najui (荒くなる)>

ʔasasai (浅い) < ʔasaku najui (浅くなる)>

rubasan (固い) < rubaku ne:n (固くない)>

fago:sai (にくい) < fago:ku najui (にくくなる)>

kʔitanasa (きたない) < kʔitanaku najui (きたなくなる)>

ssasa (くさい) < ssaku najui (くさくなる)>

kʔurusan (黒い) < kʔuruku najun (黒くなる)>

fumasa (細い) < fumaku najui (細くなる)>

る)>

pi:sai (寒い) < pi:sa ne: (寒くない)

pi:ku najui (寒くなる)>

ʔadʒagarasan (塩辛い) < ʔadʒagaraku najun (塩辛くなる)>

ʔibusa (渋い) < ʔibuku najun (渋くなる)>

sube:sa (すっぱい) < sube:ku najun (すっぱくなる)>

ʔirusai (白い) < ʔiruku najui (白くなる)>

ʔisa:sai (少ない) < ʔisa:ku najui (少なくなる)>

ʔibasai (狭い) < ʔibaku najui (狭くなる)>

ʔinasai (小さい) < ʔinaku najui (小さくなる)>

ʔigurusa (冷たい) < ʔiguruku najui (冷たくなる)>

nijasai (苦い) < nijaku najui (苦くなる)>

ʔissai (薄い) < ʔisuku najui (薄くなる)>

ʔubussa (重い) < ʔubussa ne: (重くない) ʔubukku nata (重くなった)>

Ⅱ類

middasai (珍しい)と全く同じ活用するものに ʔigarasan (忙しい) sudasan (涼しい)がある。

また、ʔammasai (だるい)もその連用形からして、Ⅱ類に属して活用するものと解される。

ʔammasai (だるい) < ʔammasa najui (だるくなる) ʔammaʔiku najun (だるくなる)>

る) >

助 動 詞

今回の調査で得られたいわゆる助動詞に相当する形式を示す。また、調査しえた限りの活用形も示す。

1. sui sun (せる, 使役)
 - dʒi: juma sun (字を読ませる)
 - ʔuttu ba ʔabira sui (弟を呼ばせる)
 - wam ba mata sui (私を待たせる)
 - ʃiken ʔukira sui (試験を受けさせる)
 - tetsu maʒira sui (鉄を曲げさせる)
 - hansu: nira sui (芋を煮させる)
 - dʒi: kaka sui (字を書かせる)
 - ʔari tata sui (彼を立たせる)
 - fuma kai kura sui (ここへ来させる)
 - tī: maʒira sui (手を曲げさせる)
 - juma sa (読まそう)
 - juma so: (読まそう)
 - juma sa n (読まさない)
 - juma sa ba (読まさば)
 - juma ʃi ba (読ませば)
 - juma ʃi (読ませ)
 - juma su na (読ますな)
 - juma ʃi busa (読ませたい)
 - juma sa:nu (読ませながら)
 - juma ʃe:n (読ませます)
 - juma sun tʃʔu (読ませる人)
 - juma suŋ ʒani (読ませるまで)
 - juma su so: (読ませるのは)
 - juma su te: (読ませるなら)
 - juma suro: (読ませるだろう)
 - juma tʃi (読ませて)
 - juma tʃui (読ませている)

- juma tʃiʔan (読ませてある)
 - juma tʃa (読ませた)
2. ri rin (れる, 受身, 可能)
 - tʃʔu ni tamma rin (人に頼まれる)
 - funi fuʒa sa rin (人を漕がされる)
 - tʃʔu ni tasukira rin (人に助けられる)
 - kju: kara wi:ra rin (今日から起きられる)
 - fudʒi ʔika ri: (漕いで行かれる)
 - tī: dʒi tura ri: (手で取られる)
 - tamma ra (頼まれよう)
 - tamma ro: (頼まれよう)
 - tamma ra n (頼まれない)
 - tamma ra ba (頼まらば)
 - tamma ri ba (頼まれれば)
 - tamma ri (頼まれなさい)
 - tamma rin na (頼まれるな)
 - tamma ri busa (頼まれたい)
 - tamma ra:nu (頼まれながら)
 - tamma re:n (頼まれます)
 - tamma rin tʃʔu (頼まれる人)
 - tamma rin ʒani (頼まれるまで)
 - tamma ri so: (頼まれるのは)
 - tamma ri te: (頼まれるなら)
 - tamma ri so: (頼まれるのは)
 - tamma tti (頼まれて)
 - tamma ttui (頼まれている)
 - tamma ttiʔan (頼れてある)
 - tamma tta (頼れた)

3. ju:sui ju:sun (~できる, 能力)
 funi fuɸi ju:sun (舟を漕ぐことができる)
 ɕittɸi: ɕidɕu: rataraki ju:sun (1日
 中働くことができる)
 ?inasam mun ?ati mu mi: ju:sun (小
 さいものでも見るができる)
 pë:sa wi: ju:sun (早く起きることができ
 る)
 mi: ju:fira n (見るができない)
 mi: ju:fira ba (見るができるならば)
 mi: ju:firi ba (見るができれば)
 mi: ju:fi busa (見るができた)
 mi: ju:sa:nu (見るができて)
 mi: ju:sun tɸʉ (見るができる人)
 mi: ju:fin ɸani (見るができるまで)
 mi: ju:su so: (見るができるのは)
 mi: ju:su te: (見るができるならば)
 mi: ju:suro: (見るができるだろう)
 mi: ju:tɸi (見るができて)
 mi: ju:tɸui (見るができて)

4. busa busai busan (たい 願望)
 funi fuɸi busa (舟を漕ぎたい)
 fon mi: busa (本を見たい)
 fuɸi busara ba (漕ぎたければ)
 fuɸi busari ba (漕ぎたければ)
 fuɸi busa ne:n (漕ぎたくない)
 fuɸi busa:nu (漕ぎたいながら)
 fuɸi busai (漕ぎたい)
 fuɸi busan (漕ぎたい)
 fuɸi busan tɸʉ (漕ぎたい人)
 fuɸi busa so: (漕ぎたいのは)
 fuɸi busa te: (漕ぎたいならば)
 fuɸi busaro: (漕ぎたいだろう)
 fuɸi busati (漕ぎたくて)

5. jassa jassai jassan (~しやすい
 容易)
 ?ama kai ?iki jassai (あそこへ行きや
 すい)
 fuma kai ki: jassai (ここへ来やすい)
 fun dɕi: ja mi: jassai (この字は見や
 すい)
 ?iki jaɕsara ba (行きやすければ)
 ?iki jassari ba (行きやすければ)
 ?iki jassa ne:n (行きやすくない)
 ?iki jassa:nu (行きやすいながら)
 ?iki jassa (行きやすい)
 ?iki jassan (行きやすい)
 ?iki jassan tɸʉ (行きやすい人)
 ?iki jassa so: (行きやすいのは)
 ?iki jassa te: (行きやすいなら)
 ?iki jassa ta (行きやすかった)
 ?iki jassaro: (行きやすいだろう)
 ?iki jassati (行きやすくて)

6. ?ammaasa ?ammasai ?ammasan (~
 しにくい 困難)
 ?ama kai ?iki ?ammaasa (あそこへ行き
 にくい)
 fuma kai ki: ?ammaasa (ここへ来にくい)
 fun dɕi: ja mi: ?ammaasa (この字は見
 にくい)
 ?iki ?ammasara ba (行きにくければ)
 ?iki ?ammasari ba (行きにくければ)
 ?iki ?ammafiku ne:n (行きにくくない)
 ?iki ?ammaasa ne:n (行きにくくない)
 ?iki ?ammaasa:nu (行きにくいながら)
 ?iki ?ammasai (行きにくい)
 ?iki ?ammasan (行きにくい)
 ?iki ?ammasan tɸʉ (行きにくい人)

ʔiki ʔammasa so: (行きにくいのは)
 ʔiki ʔammasa te: (行きにくいなら)
 ʔiki ʔammasa tan (行きにくかった)
 ʔiki ʔammasaro: (行きにくいだろう)
 ʔiki ʔammasati (行きにくくて)

7. gurusa gurusai guruan (~しにくい 困難)

ʔama kai ʔiki gurusa (あそこへ行きにくい)
 fuma kai ki: gurusa (ここへ来にくい)
 fun dʒi: ja mi: gurusa (この字は見にくい)
 ʔiki gurusara ba (行きにくければ)
 ʔiki gurusari ba (行きにくければ)
 ʔiki gurusa ne:n (行きにくくない)
 ʔiki gurufiku ne:n (行きにくくない)
 ʔiki gurusa:nu (行きにくいながら)
 ʔiki gurusai (行きにくい)
 ʔiki guruan (行きにくい)
 ʔiki guruan tʃu (行きにくい人)
 ʔiki gurusa so: (行きにくいのは)
 ʔiki gurusa te: (行きにくいなら)
 ʔiki gurusa ta (行きにくかった)
 ʔiki gurusaro: (行きにくいだろう)
 ʔiki gurusati (行きにくくて)

8. mpjo:jui mpjo:jun (~しなざる 尊敬)

kaki mpjo:jun (お書きになる)
 pë:ku wi: mpjo:jui (早くお起きになる)
 mi mpjo:jun (見なざる)
 mi mpjo:jui (見なざる)
 kaki mpjo:ra (お書きしよう)
 kaki mpjo:ra n (お書きにならない)

kaki mpjo:ra ba (お書きになれば)
 kaki mpjo:ri ba (お書きになれば)
 kaki mpjo:ri (お書きなさい)
 kaki mpjo:ru na (お書きになるな)
 kaki mpjo:i busa (お書きになりたい)
 kaki mpjo:ja:nu (お書きになりながら)
 kaki mpjo:je:n (お書きになります)
 kaki mpjo:jun tʃu (お書きになる人)
 kaki mpjo:jun ɣani (お書きになるまで)
 kaki mpjo:ju so: (お書きになるのは)
 kaki mpjo:ju te: (お書きになれば)
 kaki mpjo:juro: (お書きになるだろう)
 kaki mpjo:tʃi (お書きになって)
 kaki mpjo:tʃui (お書きになっている)
 kaki mpjo:tʃiʔan (お書きになってある)
 kaki mpjo:tʃa (お書きになった)

尊敬をあらわすのに、上記の mpjo:jui の他に、動詞の ʔumo:jui (いらっしゃる) が形式動詞的に用いられて、尊敬表現を形成する場合がある。

funi fudʒi ʔumo:jui (舟を漕いでいらっしゃる)
 ʃimbun judi ʔumo:jui (新聞を読んでいらっしゃる)
 fusa tuti ʔumo:jui (草を取っていらっしゃる)

9. nessui nessun (~しそうだ 様子)

kakjun nessui (書きそうだ)
 kakjun nessun (書きそうだ)
 kakjun nessura n (書きそうでない)
 kakjun nessura ba (書きそうならば)
 kakjun nessuri ba (書きそうならば)
 kakjun nessuja:nu (書きそうでありながら)

kakjun nessun tʃʷu (書きそうな人)
 kakjun nessu so: (書きそうなのは)
 kakjun nessu te: (書きそうなら)
 kakjun nessuro: (書きそうだろう)
 kakjun nessuti (書きそうで)
 kakjun nessuta (書きそうだった)
 nessui は ne (～の様) と sui (する) に分
 析できるかもしれない。従って、これを助動詞
 とすることに多少問題があるが、一応ここでは
 このように取扱っておく。

また、(～しそうだ) をあらわすのに、ʔa-
 mbe: (安排) が用いられる場合もある。

ʔama kai ʔikjun ʔambe: dʒa (あそこへ
 行きそうだ)

fuma kai ki: ʔambe: dʒa (ここへ来そ
 うだ)

10. je:i je:n (です, ます ていねい)
 wa ɸa ʔike:n (← ʔiki je:n) do: (私
 が行きます)
 wa ɸa jume:n (← jumi je:n) (私が読
 みます)
 wan kʔi je:n (私が着ます)
 pē:sa wī: je:n (早く起きます)
 kʔi je:ra (着ましょう)
 kʔi je:ro: (着ましょう)
 kʔi je:ra n (着ません)
 kʔi je:ra ba (着ましたら)
 kʔi je:ri ba (着ましたら)
 kʔi je:i (着ます)
 kʔi je:n tʃʷu (着ます人)
 kʔi je: so: (着ますのは)
 kʔi je:ro: (着ますでしょう)
 kʔi je:ti (着まして)
 kʔi je:ta (着ました)

11. n (ない 否定)
 nu: mu tura n (なにも取らない)
 nja: mira n (もう見えない)
 nja: kura n (もう来ない)
 nja: ʃira n (もう知らない)
 kura n tʃʷu (来ない人)
 kura n so: (来ないのは)
 kura n te: (来ないなら)
 kura n tan (来なかった)

否定は他に活用語の語尾部分が長音化してあ
 らわされる場合もある。

nja: kura: (もう来ない)
 nja: ʃira: (もうしない)

また、形容詞の場合は ne:, ne:n (ない 否
 定) 等に接する。

12. ta tan (た 過去)
 kakju ta (書いた)
 kakju tan (書いた)
 kaka su ta (書かせた)
 kaki busa tan (書きたかった)

13. dʒa (だ 断定)
 ʔare: funi dʒa (あれは舟だ)
 ʔare: ʃima dʒa (あれは島だ)

以上が志戸桶方言の調査で得られたいわゆる
 助動詞に相当する形式である。これらの他に、
 fara:tun (～しやがる, 卑下) という形式も
 ある。これも助動詞に相当する形式とみなして
 よいかどうか、今のところはっきりしない。

funi fuɸi fara:tun (舟を漕ぎやがる)
 dʒi: kaki fara:tun (字を書きやがる)
 naki fara:tun (泣きやがる)
 kaki fara:tura (書きやがろう)
 kaki fara:tura n (書きやがらない)

kaki fara:tura ba (書きやがらば)
 kaki fara:turi ba (書きやがれば)
 kaki fara:turi (書きやがれ)
 kaki fara:tun na (書きやがるな)
 kaki fara:tui busa (書きやがりたい)
 kaki fara:tuja:nu (書きやがりながら)

kaki fara:tui (書きやがる)
 kaki fara:tun tʃʷu (書きやがる人)
 kaki fara:tuiŋ ɣani (書きやがるまで)
 kaki fara:tu so: (書きやがるのは)
 kaki fara:tu te: (書きやがるなら)
 kaki fara:turo: (書きやがるだろう)

助動詞の相互承接

志戸桶方言の助動詞を大きく分類すると, dʒa (だ, 断定) とそれ以外とに分類される。

dʒa は体言を承け, それ以外の助動詞は用言または助動詞を承ける。ここでは dʒa 以外のものについて, 用言を基点として, 各々の助動詞がどう承接するかについてみていく。

1. 動詞

志戸桶方言の動詞には, 「動詞の活用」で述べたように「基本」「継続」「既存」「完了」の語形替変がある。「書く」に関する形式で示すと, 次の通りである。

基本 kakju: (または kakjun) (書く)

継続 katʃu:i (または katʃu:n) (書いている)

既存 katʃe:i (または katʃe:n) (書いている)

完了 katʃai (または katʃan) (書いた)

これらの形式は各々終止形にあたり, それぞれ活用する。助動詞に相当する形式は「基本」の形式につくことはもちろんのことながら, 他の「継続」「既存」「完了」にもつく。「既存」「完了」につくものはかなり限られているが, 「継続」には「基本」とほぼ同様につく。但しここでは「基本」の形式を中心に, これを基点として各助動詞がどう承接していくかについて

みていきたい。

2. sui (せる, 使役)

動詞の直後に位置するのは「使役」の助動詞 sui または sun である。

kaka sun (書かせる)

tura sui (取らせる)

3. ri: (れる, 受身・可能)

sui(せる)の次に位置するのが「受身・可能」の ri: または rin である。

(ア) 動詞—受身

kaka rin (書かれる)

(イ) 動詞—使役—受身

kaka sa ri: (書かされる)

kaka sa tta (書かされた)

4. ju:sui (~できる, 能力)

「受身」の助動詞 ri: の次に位置するのが「能力」をあらわす ju:sui または ju:sun である。

(ア) 動詞—能力

kaki ju:sun (書くことができる)

tui ju:sui (取ることができる)

(イ) 動詞—使役—能力

kaka ʃi ju:sun (書かすことができる)

5. busa (たい, 願望)

jassa (やすい, 容易)

ʔammaasa (にくい, 困難)

gurusa (にくい, 困難)

「能力」の助動詞 ju:sui の次に位置するのがこれらの助動詞である。これら4個の助動詞の相互間には前後関係の順序はなく、共に同列である。これらはすべて形容詞型活用の助動詞である。

- (ア) 動詞 —

—	願望 (busa)
	容易 (jassa)
	困難 (ʔammaasa, gurusa)

kaki busa (書きたい)

kaki jassa (書きやすい)

kaki ʔammaasa (書きにくい)

kaki gurusa (書きにくい)

- (イ) 動詞 — 使役 — 受身 —

—	願望
	容易
	困難

kaka sa ri busa (書かされたい)

kaka sa ri jassa (書かされやすい)

kaka sa ri ʔammaasa (書かされにくい)

kaka sa ri gurusa (書かされにくい)

6. mpjo:jui (~なさる, 尊敬)

「願望」等の助動詞の次に位置するのが「尊敬」を表わす mpjo:jui または mpjo:jun である。これがつくと尊敬表現形式となる。

(ア) 動詞 — 尊敬

kaki mpjo:jui (お書きになる)

kaki mpjo:tʃui (お書きになっている)

kaki mpjo:tʃe:n (お書きになってある)

kaki mpjo:tʃa (お書きになった)

(イ) 動詞 — 使役 — 尊敬

kaka fi mpjo:jui (書かせなさる)

(ウ) 動詞 — 受身 — 尊敬

kaka ri mpjo:jui (書かれなさる)

(エ) 動詞 — 使役 — 受身 — 尊敬

kaka sa ri mpjo:jui (書かされなさる)

(オ) 動詞 — 能力 — 尊敬

kaki ju:ʃi mpjo:jui (お書きになることができる)

- (カ) 動詞 —

—	願望
	容易
	困難

 — 尊敬

kaki busa mpjo:jui (書きたくなさる)

kaki jassa mpjo:jui (書きやすくなさる)

kaki ʔammaasa mpjo:jui (書きにくくなさる)

kaki gurusa mpjo:jui (書きにくくなさる)

(キ) 動詞 — 使役 — 受身 — 願望 — 尊敬

kaka sa ri busa mpjo:jun (書かされたくしていच्छやる)

7. nessui (そうだ, のようだ, 様子)

「尊敬」の mpjo:jui の次に位置するのが「様子」の nessui である。ただ、これは助動詞の記述のところでも述べたように、ne (～の様) と sui (する) に分析できないことないので、これを助動詞とするか否かについては今後検討してみる必要がある。但し、「尊敬」の次に「様子」のカテゴリーが位置することは志戸桶方言の場合にもいえる。

(ア) 動詞 — 様子

kakjun nessui (書きそうだ)

- (イ) 動詞 — 使役 — 受身 —

—	願望
	容易
	困難

 — 様子

kaka sa ri busa nessu ta (書かされたさそうだった)

kaka sa ri jassa nessu ta (書かされや

すそうだった)

kaka sa ri ʔammaɓa nɛssu ta (書かされにくそうだった)

(㉞) 動詞-願望-尊敬-様子

kaki busa mpjo: jun nɛssui (書きたくなさるようだ)

8. je:i (です, ます, ていねい)

「様子」の nɛssu の次に位置するのが「ていねい」の je:i または je:n である。これまで記述してきた諸形式はすべて「非ていねい」形式である。これらの諸形式に je:i または je:n がつくと「ていねい」表現となる。

(㉟) 動詞-ていねい

kake:n (書きます)

これは kaki (書き, 連用形) に je:n が融合したものである。

(㊱) 動詞-使役-ていねい

kaka fe:n (書かせます)

fe:n は「使役」の助動詞 sui の連用形 fi に je:n が融合したものである。

(㊲) 動詞-受身-ていねい

kaka re:n (書かれます)

re:n は「受身」の助動詞 ri: の連用形 ri に je:n が融合したものである。

(㊳) 動詞-使役-受身-ていねい

kaka sa re:n (書かされます)

(㊴) 動詞-能力-ていねい

kaki ju: fe:n (書くことができます)

ju: fe:n は「能力」の助動詞 ju: sui の連用形 ju: fi に je:n が融合したものである。

(㊵) 動詞 — 願望 — ていねい

容易
困難

kaki busa je:n (書きたいです)

kaki jassa je:n (書きやすいです)

kaki ʔammaɓa je:n (書きにくいです)

kaki gurusa je:n (書きにくいです)

(㊶) 動詞-尊敬-ていねい

kaki mpjo: je:n (お書きになります)

(㊷) 動詞 — 願望 — 尊敬-様子-ていねい
容易
困難

kaki busa mpjo: jun nɛssu je:n (書きたくなさるようです)

kaki jassa mpjo: jun nɛssu je:n (書きやすくなさるようです)

kaki ʔammaɓa mpjo: jun nɛssu je:n (書きにくくなさるようです)

kaki gurusa mpjo: jun nɛssu je:n (書きにくくなさるようです)

9. n (ない, 否定)

「ていねい」の je:i の次に位置するのが「否定」の助動詞 n である。否定は n の他に、活用語の語尾部分が長音化する方法や、あるいは ne:, ne:n, ne:ran がついて表わされる場合もある。

これまで記述してきた形式はすべて肯定形式である。これらの形式に「否定」の助動詞がつくと「否定」表現形式が成立する。

▲ 普通・否定形式

(㊸) 動詞-否定

kaka n (書かない)

kaka: (書かない)

katʃiura n (書いていない)

katʃiura: (書いていない)

(㊹) 動詞-使役-否定

kaka sa n (書かさない)

(ウ) 動詞－受身－否定

kaka ra n (書かれない)

(ク) 動詞－能力－否定

kaki ju:fira n (書くことができない)

(カ) 動詞 — 願望 — 否定

願望
容易
困難

kaki busa ne:ra n (書きたくない)

kaki jassa ne:ra n (書きやすくない)

kaki 7ammaasa ne:ra n (書きにくくない)

kaki gurusa ne:ra n (書きにくくない)

(カ) 動詞－尊敬－否定

kaki mpjo:ra n (お書きにならない)

kaki mpjo:ra: (お書きにならない)

kaki mpjo:tjura n (お書きになっていない)

kaki mpjo:tjura: (お書きになっていない)

kaki mpjo:tje:ra n (お書きになっていない)

kaki mpjo:tje:ra: (お書きになっていない)

(ケ) 動詞－様子－否定

kakjun nessura n (書きそうでない)

kakjun nessura: (書きそうでない)

kakjun nessura n tan (書きそうでなかった)

(ク) 動詞－使役－尊敬－否定

kaka fi mpjo:ra n (書かせなさない)

(ク) 動詞－受身－尊敬－否定

kaka ri mpjo:ra n (書かれなさない)

(ク) 動詞－能力－尊敬－否定

kaki ju:fi mpjo:ra n (お書きになることができない)

(カ) 動詞 — 願望 — 尊敬－否定

願望
容易
困難

kaki pusa mpjo:ra n (書きたくなさない)

い)

kaki jassa mpjo:ra n (書きやすくなさない)

kaki 7ammaasa mpjo:ra n (書きにくくなさない)

kaki gurusa mpjo:ra n (書きにくくなさない)

▲ ていねい・否定形式

(シ) 動詞－ていねい－否定

kake:ra n (書きません)

kake:ra: (書きません)

katjue:ra n (書いていません)

katjue:ra: (書いていません)

katji7ae:ra n (書いてありません)

(ス) 動詞－使役－ていねい－否定

kaka fe:ra n (← kaka fi je:ra n)
(書かせません)

(セ) 動詞－受身－ていねい－否定

kaka re:ra n (← kaka ri je:ra n)
(書かれません)

(ソ) 動詞－能力－ていねい－否定

kaki ju:fe:ra n (← kaki ju:fi je:ra n)
(書くことができません)

(カ) 動詞 — 願望 — ていねい－否定

願望
容易
困難

kaki busa 7aje:ra n (書きたくありません)

kaki jassa 7aje:ra n (書きやすくありません)

kaki 7ammaasa 7aje:ra n (書きにくくありません)

kaki gurusa 7aje:ra n (書きにくくありません)

10. tan (た, 過去)

「否定」の n の次に位置するのが「過去」の tan または ta である。いわゆる助動詞の中では、これが最も文末に近く位置する。tan がつくと「過去」表現形式が成立する。

▲ 普通・肯定・過去形式

(ア) 動詞－過去

kakju tan (書きよった)

katʃiu ta (書いていた)

katʃe: ta (書いてあった)

(イ) 動詞－使役－過去

kaka su ta (書かせた)

(ウ) 動詞－受身－過去

kaka tta (書かれた)

(エ) 動詞－能力－過去

kaki ju:su ta (書くことができた)

(オ) 動詞 —

願望
容易
困難

 — 過去

kaki busa tan (書きたかった)

kaki jassa ta (書きやすかった)

kaki ʔammaasa ta (書きにくかった)

kaki gurusa ta (書きにくかった)

(カ) 動詞－尊敬－過去

kaki mpjo:ju ta (お書きになった)

kaki mpjo:tʃiu ta (お書きになっていた)

kaki mpjo:tʃe: ta (お書きになってあった)

(キ) 動詞－様子－過去

kakjun nesso ta (書くようだった)

(ク) 動詞－使役－受身－過去

kaka sa tta (書かされた)

(ケ) 動詞－使役－受身 —

願望
容易
困難

 — 過去

kaka sa ri busa tan (書かされたかった)

kaka sa ri jassa tan (書かされやすかった)

kaka sa ri ʔammaasa tan (書かされにくかった)

(コ) 動詞－使役－受身－様子－過去

kaka sa rin nesso ta (書かされるようだった)

(カ) 動詞－使役－尊敬－過去

kaka ʃi mpjo:ju tan (書かせなされた)

(シ) 動詞－受身－尊敬－過去

kaka ri mpjo:ju tan (書かれなされた)

(ス) 動詞－能力－尊敬－過去

kaki ju:ʃi mpjo:ju tan (お書きになることができた)

(セ) 動詞 —

願望
容易
困難

 — 尊敬－過去

kaki busa mpjo:ju tan (書きたくなされた)

kaki jassa mpjo:ju tan (書きやすくなされた)

kaki ʔammaasa mpjo:ju ta (書きにくくなされた)

kaki gurusa mpjo:ju ta (書きにくくなされた)

▲ ていねい・肯定・過去形式

(ソ) 動詞－ていねい－過去

kake:ta (← kaki je: ta) (書きました)

(タ) 動詞－使役－ていねい－過去

kaka ʃe: ta (← kaka ʃi je: ta) (書かせました)

(チ) 動詞－受身－ていねい－過去

kaka re: ta (← kaka ri je: ta) (書かれました)

(ウ) 動詞-能力-ていねい-過去

kaki ju:je: ta (← kaki ju:ji je: ta) (書くことができました)

(エ) 動詞 —

願望
容易
困難

 — ていねい-過去

kaki busa je: tan (書きたいでした)

kaki jassa je: tan (書きやすかったです)

kaki ?ammasa je: tan (書きにくいでした)

kaki gurusu je: tan (書きにくいでした)

(イ) 動詞-使役-受身-ていねい-過去

kaka sa re: ta (kaka sa ri je: ta) (書かされました)

(ロ) 動詞 —

願望
容易
困難

 — 尊敬-様子-ていねい-過去

kaki busa mpjo:jun nesso je: tan (書きたくなさるようだった)

kaki jassa mpjo:jun nesso je: tan (書きやすくなさるようだった)

kaki ?ammasa mpjo:jun nesso je: tan (書きにくくなさるようだった)

kaki gurusu mpjo:jun nesso je: tan (書きにくくなさるようだった)

▲ 普通・否定・過去形式

(一) 動詞-否定-過去

kaka n tan (書かなかった)

(二) 動詞-使役-否定-過去

kaka sa n tan (書かさなかった)

(三) 動詞-受身-否定-過去

kaka ra n tan (書かれなかった)

(四) 動詞-能力-否定-過去

kaki ju:fira n tan (書くことができな

かった)

(五) 動詞 —

願望
容易
困難

 — 否定-過去

kaki busa nen tan (書きたくなかった)

kaki jassa nen ta (書きやすくなかった)

kaki ?ammasa nen ta (書きにくくなかった)

kaki gurusu nen ta (書きにくくなかった)

(六) 動詞-尊敬-否定-過去

kaki mpjo:ra n tan (お書きにならなかった)

kaki mpjo:tfura n tan (お書きになっていなかった)

kaki mpjo:tfje:ra n tan (お書きになってなかった)

(七) 動詞-使役-尊敬-否定-過去

kaka ji mpjo:ra n tan (書かせなさらなかった)

(八) 動詞-受身-尊敬-否定-過去

kaka ri mpjo:ra n tan (書かれなさらなかった)

(九) 動詞-能力-尊敬-否定-過去

kaki ju:ji mpjo:ra n ta (書くことができにならなかった)

(十) 動詞 —

願望
容易
困難

 — 尊敬-否定-過去

kaki busa mpjo:ra n tan (書きたくなさらなかった)

kaki jassa mpjo:ra n tan (書きやすくなさらなかった)

kaki ?ammasa mpjo:ra n tan (書きにくくなさらなかった)

kaki gurusu mpjo:ra n tan (書きにくく

なさらなかった)

▲ ていねい・否定・過去形式

(シ) 動詞-ていねい-否定-過去

kake:ra n tan (←kaki je:ra n tan)
(書きませんでした)

(ム) 動詞-使役-ていねい-否定-過去

kaka fe:ra n tan (←kaka fi je:ra n tan)
(書かせませんでした)

(メ) 動詞-受身-ていねい-否定-過去

kaka re:ra n tan (←kaka ri je:ra n tan)
(書かれませんでした)

(モ) 動詞-能力-ていねい-否定-過去

kaki ju:fe:ra n tan (←kaki ju:fi je:ra n tan)
(書くことができませんでした)

(ヤ) 動詞 — [願望] — ていねい-否定-過去

[容易]
[困難]

kaki busa ?aje:ra n tan (書きたくありませんでした)

kaki jassa ?aje:ra n tan (書きにくくありませんでした)

kaki ?ammaasa ?aje:ra n tan (書きにくくありませんでした)

kaki gurusa ?aje:ra n tan (書きにくくありませんでした)

—能力(ju:sui)— [願望 (busa)
容易 (jassa)
困難 (?ammaasa)
gurusa]

—尊敬(mpjo:jui)—様子(nessui)

—ていねい(je:i)—否定(n)

—過去(tan)

各助動詞の語形は多少異なっていますが、そのあられ方の順序は他の奄美・沖縄方言とほぼ同じである。

11. まとめ

以上みてきた志戸桶方言の助動詞の相互承接をまとめてみると、次の通りになる。

動詞-使役(sui)-受身(ri:)

助 詞

志戸桶方言で調査しえた助詞とその用例を示す。

ga (が)

wa ga ?ikjun (私が行く)

tudzi ga funi dzi nafa kai ?idzan do:

(妻が舟で那覇へ行ったぞ)

?iru ga tfurasa ja: (色がきれいね)

?aŋ ga kuri ba wakajui (彼が来ればわかる)

da ga tujun radzu dza (君が取るはずだ)

wa ga ja: kai ?ikjun (私の家へ行く)

ba (を)

「を」にあたる助詞は琉球方言では形態としてあらわれないのが普通である。志戸桶方言でも、形態としてあらわれない場合が多いが、時には ba という形であらわれる場合もある。

ts?u muke nnja ?ikjun do: (人を迎えに行く)

?uttu ba ?abira sui (弟を呼ばせる)

wam ba mata sui (私を待たせる)

ni (に)

?aŋ kwa: ?uja ni nitfun (あの子は親に似ている)

?uttu ni kaka sui (弟に書かせる)

?uttu ja ja: ni wun do: (弟は家に居るぞ)

jamato: wa:sai ni ?idzan do: (大和は若い時に行ったぞ)

?igga: ni k?wa rin do: (犬にかまれるぞ)

?uttu ni sumijui (弟にさせる)

?uttu ni siŋutu sumijui (弟に仕事をさせる)

ne: (に)

?ippai kjurasan nje: matŋige: ne:n ja:

(大変美しいちがいないよ)

ne: は ni ja (には)の融合したものであろう。

nnja (に)

ts?u muke nnja ?ikjun do: (人を迎えに行くぞ)

kai (へ)

ja: kai ?ikjun do: (家へ行くぞ)

?ama kai ?iki ba butira rin do: (あそこへ行ったら叱られるぞ)

da: ja dza: kai ?ikju su jo: (あなたはどこへ行くのよ)

tudzi ga funi dzi nafa kai ?idzan do:

(妻が舟で那覇へ行ったぞ)

sutu kai ?idzira ra: (外へ出られない)

tŋi (へ)

fuma tŋi ku: (ここへ来い)

tu (と)

?uja tu madzi:ni ?ikjun do: (親と一緒に行くぞ)

tŋi (と)

?aŋ ga ?ikjun do: tŋi tŋan (彼が行くぞ)

と言った)

jo:dʒin firi tʃi ʔiju su do: (用心しろ
というのだぞ)

tura n tʃi tʃi kara tutun do: (取らない
と言ってから取っているぞ)

kara (から)

tiŋ kara ʔutiti kju:n (天から落ちてく
る)

mafa kara muduti kjun do: (那覇から戻
ってくるぞ)

tura n tʃi tʃi kara tutun do: (取らない
と言ってから取っているぞ)

jokka (より)

da ja ʔari jokka mu dʒo:bu dʒa so: (君
は彼より丈夫である)

dʒi (で)

hako: ʃi: dʒi tsʔukkjun do: (箱は木
でつくる)

funi dʒi nafa kai ʔidʒan do: (舟で那覇
へ行った)

ʃi: dʒi ʔumariti (志戸桶で生れた)

pama dʒi ʔasubjun do: (浜で遊ぶぞ)

furi dʒi dʒi: ŋa kaka rin (これで字が
書ける)

nu (の)

ʃi: nu juda haritun (木の枝が枯れてい
る)

ʔujantʃa: nu ʔijun tu:i ni firi jo:
(親の言う通りしなさいよ)

tsʔuki nu ʔaŋajum madi mu patarakjun
(月の上がるまでも働く)

su (の, 準体助詞)

du: dʒa: ni ʔa su jo: (どれどこにある
のか)

taŋ ŋa kakju su jo: (誰が書くのか)

ʔaffi nati jo:dʒin firi tʃi ʔiju su do:
(だから用心しろというのだぞ)

ʔaŋ ŋa sagatʃu so: diru ka (彼がさが
しているのはどれか)

madi (まで)

njama madi mattʃi mu kura n so: (今
まで待っても来ない)

ʔaffi madi ʔitʃi kara ni waffita giri
ja kʔika n do: (そんなにまで言ってから
に, 忘れたならば許さないぞ)

nafa madi ʔidʒi kjus sa (那覇まで行っ
てくるさ)

warabintʃa: ni madi warawa rin (子
供にまで笑われる)

tsʔuki nu ʔaŋajum madi mu patarakjun
(月の上がるまで働く)

ŋani (まで)

wa ŋa kaki:n ŋani ʔare: kura n tan
(私が書くまで彼は来なかった)

ʔiki:ŋ ŋani (行くまで)

mi:ŋ ŋani (見るまで)

ki:ŋ ŋani (来るまで)

bakkai (ばかり)

mīdzu bakkai nudui (水ばかり飲んでい
る)

katʃi bakkai wun (書いてばかりいる)

be: (ばかり)

ʔun ʔijo: tʃansa be: suk ka (この魚は
いくらばかりするか)

ntʃa (など)

ʔumi ntʃa ʔidʒimiri jurusan do: (海な
ど行ってごらん, 許さないぞ)

ʔimi ntʃa mitʃaro: (夢などみたんでしょ
う)

gure: (ぐらい)

ʔare: gure: wam mu dikijun (あれぐ
らい私もできる)

nafi (のように)

ʔari nafi patarakjun tsʔu wura n do:
(彼のように働く人はいない)

ʔan tsʔu nafi patarakjun tsʔo: wura
n (あの人のように働く人はいない)

nen (の)

tui nen tubi so: (鳥の飛ぶみたいだ)

ba (ば)

nama ʔiki ba maniʔo: jun do: (今行けば
間に合うよ)

wa ʔa kaka ba miri ja: (私が書かば見
なさい)

munni (のに)

ʔure: tʃo: mu wakara m munni nu: ʔa
wakajun nja (これさえわからないのに, な
にがわかるか)

mai se:ra dikijum munni da ja dikira
n su na (女でさえできるのに, 君はできな
いのか)

mun (が)

ʔare: ʃittʃum mun hatara n (彼は知っ
ているが, 教えない)

ʃe: ja ju: numjum mun dʒa ʔa ju: pa-
tarakjui (酒はよく飲むが, よく働く)

ʃirabitam mun dʒa ʔa wakara: (調べた
が, わからない)

munは「もの」に対応するが, これが逆接の接
続助詞として用いられる。

nati (から, 理由)

hamatʃiʔa jamjun nati kju: ja jasumj-
ui (頭が痛いから今日は休む)

wanu mu ʔikjun nati da mu ku: (私も行
くから君も来い)

ja:nu (ながら)

wi: ja:nu ʔijun (起きながらいう)

dʒi: kakja:nu (←kaki ja:nu)

kappë: jun (字を書きながら考える)

ʔakkja:nu (←ʔakki ja:nu) jumjui
(歩きながら読む)

te: (なら)

dʒi: katʃu: te: ʔabira nnen ʔuki (字
を書いているなら呼ばないでおけ)

ʔami fu te: jamijui (雨が降るならや
める)

tu (と)

ʔiʔʔa: tu maja tu dʒa: ʔa tsʔusak ka
(犬と猫とどちらが強いか)

jara (やら)

ʔubisan tsʔu: jara warabintʃa: madī

gabaffi wun (大人やら子供まで多くいる)	tʃo: (さえ)
ja (は)	ʔure: tʃo: mu wakara m munnɪ nu:
ʔuttu: ja ja:ni wun do: (弟は家に居るぞ)	ŋa wakajun nja (これさえわからないのになにがわかるか)
da ja ʔari jokka mu dʒo:bu dʒa so: (君は彼より丈夫だぞ)	se:ra (さえ)
ʔiŋga: ja tsʔuku de:ru (犬は強いのだ)	mai se:ra dikijum munnɪ da ja dikira
fe: ja ju: numjun (酒はよく飲む)	n su na (女でさえできるのに、君はできないのか)
kju: ja jasumjui (今日は休む)	mɪdzu se:ra numa n (水さえ飲まない)
jaが前の形式に融合してしまう例も多い。	dɪmu (でも)
hako: ʃi: dʒi tsʔukkjun do: (箱は木でつくる)	ʔuttu dɪmu wu te: tsʔuri ku: jo: (弟でもいたらつれてこいよ)
ʔare: nu: ka (なれはなにか)	do: (ぞ)
fuma: natso: sudasa fujo: mukusa	nama ʔiki ba maniʔo:jun do: (今行けば間に合うぞ)
nu: mu ʔijun kuto: ne:ra n (ここは夏は涼しいし、冬は温いしにも言うことはない)	ʔatʃa: kju:n do: (明日来るぞ)
mu (も)	mijun do: (見るぞ)
njama madi mattʃi mu kura n do: (今まで待っても来ないぞ)	tsʔusan do: (強いぞ)
ʔari jokka mu dʒo:bu dʒa so: (彼より丈夫だ)	wa ŋa tujun do: (私が取るぞ)
wam mu madgini kamo: (私も一緒に食べよう)	nja: njama tubjun do: (もうやがて飛ぶぞ)
ʔari mu furi mu jutasai (あれもこれもみなよい)	tutun do: (取っているぞ)
da mu fo:wa n na (君も買わないか)	katʃun do: (書いているぞ)
wanu mu ʔikjun nati da mu ku: (私も行くから君も来い)	na (な)
ʔaffi ʃi mu ʃiranti mu da: katti dʒa (そうしてもしなくても君の勝手だ)	ssa tun na (草を取るな)
pə:sa wi:ti mu maniʔo:wa: (早く起きても間に合わない)	wusu ʔin na (うそいうな)
	mɪ (か)
	wa ŋa kakju mɪ (私が書くか)
	miju mɪ (見るか)
	su mɪ (するか)

kju: mi (来るか)

ka (か)

?ure: nu: ka (これは何か)

fure: ta: mun ka (これは誰のものか)

?un ?ijo: tʃansa be: suk ka (この魚は
いくらばかりするか)

?aŋ ʒa sagatʃu so: diru ka (彼がさが
しているものはなにか)

ʒa (か)

furi ʒa ?ari na diru ʒa (これかあれか
どれか)

kaja: (かしら)

?uttu: ja ?itsu kjuk kaja: (弟はいつ
くるのかしら)

?are: ja: ni wuk kaja: (あれは家に居
るかしら)

na (か)

mai se:ra dikijum munnī da ja dikī-
ra n su na (女でさえできるのに、君はで
きないのか)

?atuni duttsui nukuju su na (あとに1
人残るのか)

da mu fo:wa n na (君も買わないか)

fuma ni ?a su na (ここにあるのか)

furi na ?ari na diru ʒa (これかあれか
どれか)

nja (か)

nu: ʒa wakajun nja (なにがわかるか)

da ʒa tujun nja (君が取るか)

da ja ?ikjun nja ?ika n na (君は行く
か行かないか)

ja: (ね)

?anu wunago: ?ippai kjurasan nje:

matʃige: ne:n ja: (あの女は大変美しいに
ちがいないね)

?ika n su dʒa ja: (行かないのだね)

turo: ja: (取ろうね)

kjurasai ja: (美しいね)

jo: (よ、ね)

?anu jo: da ja jo: ju: kaŋʒë:ti kuri

jo: (あのね、君はね、よく考えてくれよ)

na:me: tʃa:ʃiʃʃi ?usuna naje:ti jo: (あ
なたはどうしておそくなりましたかね)

?anu jo: nja:nai ?ubisa tad do: ʒa (あ
のね、もっと大きかったですでしょうが)

代 名 詞

▲ 志戸桶

志戸桶方言の代名詞を示すと、第10表の通りになる。

特徴的なことをあげると、次の通りである。

(1) 第三人称で近称と遠称の対立は比較的明確であるが、近称と中称とは明確な対立を示さない。たとえば、話手側に近いものに対して *furi* (これ) とも *?uri* (それ) ともいえる。

第 10 表

志 戸 桶 方 言 ・ 代 名 詞

情 態	関 係	方 向	場 所	事 物	人	の事柄 種類	
						話 手 と 保 関 と	
					<i>wan</i> (私) <i>wa</i> (私) <i>wanu</i> (私) <i>wanna</i> (私たち) <i>wai:tʃa:</i> (私たち)	(話手)	第一人称
					<i>da:</i> (おまえ) <i>na:mi</i> (あなた) <i>da:gure:</i> (おまえたち, 卑語) <i>da:tʃa:</i> (おまえたち) <i>danna:</i> (おまえたち) <i>na:tʃa:</i> (あなたたち)	(聞手)	第二人称
<i>haʃi</i> (こう) <i>haʃʃun</i> (こんな)	<i>Funu</i> (この) <i>Fun</i> (この)	<i>Fumakai</i> (ここへ)	<i>Fuma</i> (ここ) <i>Funre:</i> (ここら)	<i>Furi</i> (これ) <i>Furinna:</i> (これら)	<i>Furi</i> (これ) <i>Funtʃu:</i> (このかた) <i>Furinna</i> (これたち) <i>Funtʃuntʃa:</i> (このかたたち)	近 称	第 三 人 称
<i>haʃi</i> (そう) <i>haʃʃun</i> (そんな)	<i>?unu</i> (その) <i>?un</i> (その)	<i>?umakai</i> (そこへ)	<i>?uma</i> (そこ) <i>?umanre:</i> (そこら)	<i>?uri</i> (それ) <i>?urinna:</i> (それら)	<i>?uri</i> (それ) <i>?untʃu:</i> (そのかた) <i>?urinna</i> (それたち) <i>?untʃuntʃa:</i> (そのかたたち)	中 称	
<i>?aʃi</i> (ああ) <i>?aʃʃun</i> (あんな)	<i>?anu</i> (あの) <i>?an</i> (あの)	<i>?amakai</i> (あそこへ)	<i>?ama</i> (あそこ) <i>?amanre:</i> (あそこら)	<i>?ari</i> (あれ) <i>?arinna:</i> (あれら)	<i>?ari</i> (あれ) <i>?antʃu:</i> (あのかた) <i>?arinna</i> (あれら) <i>?antʃuntʃa:</i> (あのかたたち)	遠 称	
<i>tʃa:ʃi</i> (いかに) <i>tʃa:ʃun</i> (どんな)	<i>dinu</i> (どの) <i>din</i> (どの)	<i>dʒa:kai</i> (どこへ)	<i>dʒa:</i> (どこ)	<i>diru</i> (どれ) <i>dirinna:</i> (どれら)	<i>tan</i> (だれ) <i>dintʃu</i> (どのかた) <i>tarunna</i> (だれたち) <i>dintʃuntʃa:</i> (どのかたたち)	不 定 称	

表では ?uri は一応中称として位置づけてあるが、これはどちらかといえば、近称の意味領域と大部分重なっていると解される。その点で志戸桶方言の中称は国語の中称とは意味領域を異にしているといえる。

(2) 複数をあらわす接尾辞として -nna と -tʃa: があらわれる。

wa - nna (私たち) wa - tʃa: (私たち)
 da - nna (おまえたち) da: - tʃa: (お
 まえたち)
 furi - nna (これら)

▲ 古仁屋

昭和 50 年に調査した古仁屋の代名詞も示しておく。話者は四本武俊氏 (81 歳) である。

古仁屋の代名詞を表にして示すと、第 11 表

の通りになる。

古仁屋の場合は第三人称の近称・中称・遠称・不定称の語形上の体系は比較的明瞭で、近称は k-, 中称は ?u-, 遠称は ?a-, 不定称は d- で特徴づけられている。

また、複数接尾辞としては -ta: と -kja: があらわれる。

kut - ta: (これたち) wa: - kja: (私
 たち)
 ?ut - ta: (それたち) na: - kja: (あ
 なたたち)
 ?at - ta: (あれたち) kuntʃun - kja:
 (このひとたち)

志戸桶の複数接尾辞 -tʃa: は古仁屋の -kja: 等から変化したものと解される。

古仁屋方言・代名詞

第 11 表

情 態	関 係	方 向	場 所	事 物	人	事 類 の 種 類
						話 字 の 関 連
					wan (私) wa:kja: (私たち)	第一人称 (話手)
					?ura (おまえ) nam (あなた) na:mi (あなた) ?urakja: (おまえたち) na:kja: (あなたたち)	第二人称 (聞手)
ka:fi (こう) ka:fun (こな)	kun (この)	kan (ここへ) kumapkjahatji (こちらへ)	kuma: (ここ) kumapkja (こちら)	kur (これ) kuntfu (このひと) kutta: (これたち) kuntfupkja: (このひとたち)		近 称
?uga:fi (そう) ?uga:fun (そんな)	?un (その)	?ugan (そこへ) ?ugannupkjahatji (こちらへ)	?uma (そこ) ?umapkja (そこら)	?ur (それ) ?utta: (それら)	?ur (それ) ?untfu (その人) ?utta: (それたち) ?untfupkja: (その人たち)	中 称
?aga:fi (ああ) ?aga:fun (あんな)	?an (どの)	?agan (あそこへ) ?agannupkjahatji (あそこらへ)	?ama: (あそこ) ?amapkja (あそこら)	?ar (あれ) ?atta: (あれら)	?ar (あれ) ?antfu (あの人) ?atta: (あれたち) ?antfupkja: (あの人たち)	遠 称
?ikja:fi (どう) ?ikja:fun (どんな)	din (どの)	da: hatji (どこへ) da: ?kjahatji (どこらへ)	da: (どこ) dapkja (どこら)	dir (だれ) ditta: (だれら)	dir (だれ) ta (だれ) tar (だれ) dintfu (どの人) ditta: (だれたち) tatta: (だれたち) dintfupkja: (どの人たち)	不 定 称

親族名称と人称代名詞

志戸桶方言の親族名称とその総称・呼称，親族名称と人称代名詞等との関係を示すと，第12表の通りとなる。

親族名称では次の語形が特徴的である。

?adzi: (祖父) ?ani: (祖母) jakki:
(父) kiŋka: (兄) baŋkwa: (姉)
mai: (妹) matabë: (末っ子)

家庭によっては母を ba:, 祖母を ?amma:, 曾祖母を ?ufamma: というところもあるようであるが，これが士族・平民の違いによるものであるか否かは不明である。

兄は一番上の兄を ?ufukiŋka: (大きい兄) 自分のすぐ上の兄を ?inakiŋka: (小さい兄) と呼ぶ。それと平行的に姉も ?ufubaŋkwa: (大きい姉) ?inabaŋkwa: (小さい姉) という。

次に，総称であるが，ここではたとえば，?ufu?adzi: (曾祖父)と ?ufu?ani: (曾祖母)を ?ufu?adzi: ?ani: (曾祖父母)と称し，?adzi: (祖父)と ?ani: (祖母)を合わせて ?adzi: ?ani: (祖父母)と称するような語形を示してある。

呼称は「夫 ego」を中心にして，それが「誰，ごはんですよ」「誰，ちよつといらっしやい」と呼ぶ場合に，「誰」のところを，具体的に「曾祖父」から「玄孫」までの各々で置きかえたとき，各々がどう呼ばれるかを示したものである。それによると，志戸桶では姉から上の目上に対してはほとんど親族名称を呼称として用いていることがわかる。

jakki: mun ded do: (お父さん，ごはんですよ)

?adzi: mun ded do: (おじいさん，ごはんですよ)

但し，「伯叔父」「伯叔母」を呼ぶときは親族名称とは異なる語形があらわれる。たとえば ?ufuwudzi: (伯父) ?ufuwuba: (伯母)を人に紹介するとき，

wa: ?ufuwudzi: ded do: (私の伯父です)

wa: ?ufuwuba: ded do: (私の伯母です)とはいえるが，

*wa: wummi: ded do: (私の伯父です)

*wa: ?abakkï: ded do: (私の伯母です)

とはいえない。

また，呼びかけるとき，

wummi: nai ?umo:ri (伯父さん，ちよつといらっしやい)

?abakkï: nai ?umo:ri (伯母さん，ちよつといらっしやい)

とはいえるが，

*?ufuwudzi: nai ?umo:ri (伯父さん，ちよつといらっしやい)

*?ufuwuba: nai ?umo:ri (伯母さん，ちよつといらっしやい)

とはいわない。

wudzi: (叔父，指称)と wummiŋkwa: (叔父，呼称)，ba: (叔母，指称)と ?abakkïŋkwa: (叔母，呼称)についても同様である。

「妻」以下の目下の者に対してはすべて名前で呼んでいる。

親族名称と人称代名詞とのかかわりぐあいをみたのが次の人称代名詞のワクである。「曾祖父」から「玄孫」までの各々が自分を話手とい

う関係において表現するときは、すべて wa, wanu, wan を用いる。また「夫 ego」を中心にして「曾祖父」から「玄孫」までを各々相手という関係で表現した場合、目上の者に対しては na:mi を用い、同等または目下に対しては da: を用いる。伯母・叔母は na:mi を用いる場合もあるし、da: を用いる場合もある。「曾祖父」から「玄孫」までを第三人称で表現すると目上の者に対しては親族名称を用いる。「妻」以下の目下の者に対しては、名前を用いる場合もあるが、また、furi (これ) ?uri (それ) ?ari (あれ) も用いることができる。

最後は「夫 ego」が「曾祖父」から「玄孫」までの誰からか呼ばれた時、あるいはそのうちの誰かに承諾したという返事をする場合の、「呼ばれた時」の「はい」と、「承諾した時」の「はい」の語形を示したものである。呼ばれた時は、目上に対しては ho: を用い、同等または目下に対しては nu ŋa (なにか) を用いる。また、承諾した時の「はい」には、目上に対しては ?o: を用い、同等または目下に対しては ?i: を用いる。

▲ 古仁屋

古仁屋方言の親族名称とその総称・呼称、および親族名称と人称代名詞等との関係を示すと第 13 表の通りとなる。

これも昭和 50 年 8 月、四本武俊氏 (81 歳) から調査したものである。

親族名称は古仁屋では項目によっては士族・平民の違いがあらわれる。たとえば、「兄」は士族では ?anjo: であり、平民は jammi である。「姉」も士族は ?afe:, ?ani であり、平民は ?ago: である。

総称はあまり多く語彙を見い出すことができなかったが、表に示したものを以外に、次のような語も得られた。

?ujaruŋji (祖先) jiçiri (姉妹から兄弟をさす語) wunari (兄弟から姉妹をさす語) haruŋji (親戚) çikihara (血族) ?i-toko (徒兄弟) futa?itoko (又従兄弟)

呼称は「夫 ego」を中心にして、目上の者に対しては親族名称を用い、目下は名前を用いる。

人称代名詞との関係では、一人称は wa, wan を用いる。二人称では「夫 ego」を中心にして、目上に対しては nam (あなた) を用い、目下に対しては ?ura (おまえ) を用いる。三人称では目上に対しては親族名称を用い、目下には名前も用いるが、kur (これ) ?ur (それ) ?ar (あれ) も用いることができる。

「はい」という返事では、同じく「夫 ego」を中心にする、呼ばれた時、目上に対しては wo: を用い、目下には ?n: を用いる。また、承諾の時は、目上に対しては ?o: を用い、目下には çi: を用いる。

第12表

志戸桶方言・親族名称と人称代名詞

項目	親族名称	総称	呼称	人 称 代 名 詞			「はい」という返事	
				一人称	二人称	三人称	呼ばれた時	承諾の時
曾祖父	?ufu?adzi:	} ?ufu?adzi: ?ani:	親族名称を用いる	↓	↓	↓	↓	↓
曾祖母	?ufu?ani:		''					
祖父	?adzi:	} ?adzi: ?ani:	''	↓	↓	↓	↓	↓
祖母	?ani:		''					
父	jakki:	} ?ujatai	''	↓	↓	↓	↓	↓
母	?amma:		''					
伯父	?ufuwudzi:	} wudzintʃa:	wummi:	↓	↑	↓	↑	↑
叔父	wudzi:		wummiŋkwa:					
伯母	?ufuwuba:	} wubantʃa:	?abakki:	↓	↑	↓	↑	↑
叔母	ba:		?abakkiŋkwa:					
兄	kiŋka:	}	親族名称を用いる	↑	↓	↓	↓	↓
姉	baŋkwa:		''					
夫 (ego)	wutu	} kjo:de:ntʃa:	↓	↑	↓	↓	↓	↓
妻	tudzi							
弟	?uttu	}	↓	↓	↓	↓	↓	↓
妹	mai:							
姪	mi:kkwa	} miwi:ntʃa:	[年下(目下)]	↓	↓	↓	↓	↓
甥	wi:kkwa		名前を呼ぶ					
長男	ʃidabo:	} kʃwantʃa:	↑	↑	↓	↑	↑	↑
次男	?uttubo:							
三男	sambammi:nu ?uttubo:							
長女	ʃidamai:	}	↑	↑	↓	↑	↑	↑
次女	?uttumai:							
三女	sambammi:nu ?uttumai:							
末っ子	matabe:	}	↑	↑	↓	↑	↑	↑
孫	mago:							
曾孫	matamago:	} magontʃa:	↑	↑	↓	↑	↑	↑
玄孫	ʃimago:							

第 13 表

古仁屋方言，親族名称と人称代名詞

項 目	親 族 名 称	総 称	呼 称	人 称 代 名 詞			「はい」という返事	
				一人称	二人称	三人称	呼ばれた時	承諾の時
曾 祖 父	?ufu?ufufsu:	} ?uja	↓ 親族名称を用いる	↓	↓	↓	↓	↓
曾 祖 母	?ufuhanne:							
祖 夫	fufsu:							
祖 母	hanne:							
父	dzu:							
母	?amma							
伯(叔)父	wudzi							
伯(叔)母	wuba, kkë:							
兄	?anjo:(士) jammï(平)							
姉	?afe(士) ?ani(士) ?ago:(平)							
夫(ego)	wutu:	} kjo:de: wunarijiçiri	↑	↓	↓	↓	↓	↓
妻	tud							
弟	?ututu							
妹	?ututuwunari							
姪	mii	} miiwui	↓	↓	↓	↓	↓	↓
甥	wui							
長 男	sïdaggwa	} kwa:maga	↓ 名前を呼ぶ	↓	↓	↓	↓	↓
次 男	?ututuggwa							
三 男	sambamminu ?ututuggwa							
長 女	wunak nu sïdaggwa							
次 女	wunak nu ?ututuggwa							
三 女	sambammï nu wunak nu kwa							
末 っ 子	?itjiban ja: nu kwa							
孫	maga							
曾 孫	matamaga, çimaga							
玄 孫	matamaga g kwa							